

2019 March

# 都市

vol.06



# 巻頭言

## 都市大校友オンラインによるネットワーク強化

東京都市大学 校友会 会長  
原口 兼正  
(S49通信)



いつも校友会活動にご協力いただき、ありがとうございます。特に、ここ2年間に協力いただいた「維持会費」納入及び「都市大校友オンライン」ログインに感謝申し上げます。

都市大校友オンラインは、校友会にとって極めて重要な情報インフラであります。旧武蔵工業会と旧美砂会の会員名簿を統合し、その後の卒業生を加えてデータベースとしています。卒業から今までの何らかの機会に登録、更新された内容が反映されています。インターネット普及前に卒業された会員のメールアドレスは登録の機会が無いままの方が多いと思います。本誌の裏表紙のご案内にて、多くの方々のログインをお願いします。

本誌「都市」が、会員の登録住所に到着している件数は6万余であります。送料の負担が多いため、年に1度の「都市」で登録のお願いをしております。昨年の都市大校友オンラインの案内一斉送付は、親書扱いの為の特別施策でした。

従来は、校友会の各種イベントのお知らせはホームページへの掲載と、過去の参加者、役員、委員等の日常的に校友会事務局がメールアドレスを保持している宛先に限定されていましたが、都市大校友オンライン導入により、ログインされてい

る方にイベント等の一斉配信しております。都市大校友オンラインの口グインは未だ約2,700件ですが、全国のこの方々に「懇親ゴルフ大会」と「バスツアー」の案内をインターネットで一斉送信したところ

- ①校友会のイベントに初参加の方が目立った
  - ②懇親ゴルフ大会に東横学園卒業生2名が初参加された
  - ③関西在住の方が仕事での東京出張の翌日にバスツアーに参加された。
- 等の効果がありました。

大学のアクションプランにおける、海外インターンシップは、2018年度63名予定、2030年度100名目標となっています。今までの派遣先の60%は卒業生ルートでした。校友会は更に海外インターンシップに協力するため、本年から「海外インターンシップ特別部会」を新設しました。学生の派遣先の開拓のために、国内での活動に加えて海外での支援ネットワークを作るため、海外で活躍する卒業生を探しています。しかしながら、校友会のデータベースには、海外の住所が殆ど無いため、都市大校友オンラインにて、ご自身が該当する方、及び該当する方を知っている方の連絡をお願いしました。12名の方から20名の情報をいただきました。この様な情報を元に更に

ネットワークを広げて、校友会の海外支部を立ち上げる事を目指しています。都市大校友オンラインからメールを受けなかった方も、ご自身や知人の海外在住者情報を校友会事務局に連絡下さる様、お願いします。

さて、昨年改正の承認をいただいた校友会の会則の(目的)第3条は、「本会は、会員相互の親睦を厚くし、組織の充実を図り、大学と連携して、母校の発展に寄与することを目的とする。」とあります。この目的のすべての要素を、創立100周年に向けて進化するスタートの年が2019年(創立90周年)だと思えます。校友会は創立100周年に向けて、会員のネットワークを強化して、皆様方の様々な立場、経験、思い出を結びつけて前進したいものです。

3年目を迎えた校友会進路相談会も好評のうちに11月に2回実施しました。この事業も都市大校友オンラインのネットワークを強化すれば、全学部に広がる別ステージに進む事が出来ると思えます。

繰り返しになりますが、「都市大校友オンライン」は校友会の生命線です。創立100周年に向けて、親睦も、支部組織も、学生支援も、すべてはネットワークから校友会の力を生み出したいと思えます。

## 「東京都市大学のこれから」

東京都市大学 学長  
東京都市大学 校友会 顧問  
三木 千壽



東京都市大学は今年創立90周年を迎えます。90周年をどのような形でお祝いするかについては、校友会の皆様にもご相談しながら具体化していきたいと考えています。大学としては、創立100周年での大学のあるべき姿を示した中長期計画「アクションプラン2030」に基づいて大学改革を推進しているところです。90周年はその途上であり、この10年を次の100年に向けての準備期間と位置づけており、今年はその決意表明の絶好のタイミングであると思います。

アクションプラン2030では「教育の質保証」、「キャンパス教育環境向上」、「ブランド力向上」、「大学運営向上」を柱として、さまざまなプログラムを遂行中です。目指す大学像としては「都市をキーワードに時代の要請に取り組み、国際都市東京で存在感を示す有数の私大を目指す」としています。この最後の部分を「国際的に存在感を示す大学になる」とすることが次のステップと考えています。

都市大の原点は1929年9月12日に設立された武蔵高等工学校です。その年の10月24日にはNew Yorkで株価が大暴落し、それが世界恐慌につながるなど、大変な時期の創立といえます。産業界は、動力源として電気が主力になり、重工業が勃興した時代です。その様な時代に、「学びたいという一心のもとに、学生自らが支援者、教えてくれる人と校地・校舎を探求し

たことによって創立された」という建学の歴史は、未来永劫尊重していくべき事実であります。

創設時より「実践的専門力を有する人材の育成」が都市大の伝統です。「どのような人材を育成するのか」については時代とともに変わっていきます。1980-90年代には日本は科学技術で世界第二位の経済大国となり、多くの国からあこがれをもって見られていました。製造業でのコンピュータと機械の組合せが牽引した、いわゆる第3次産業革命に勝利した結果ともいえます。しかし、バブル崩壊以降の30年、わが国は厳しいグローバル競争のなかで急速に優位性を失い、未だに復元できない状況にあります。今迎えようとしているAI、IoTの牽引する第4次産業革命、あるいはソサイエティ5.0時代に活躍できる人材の育成が課題です。

教育面では、将来のリーダー育成を目的として、学部と大学院の構成と内容を変えつつあります。高度の専門力を有する人材を育成するには、学部と大学院までを通したプログラムが必要と考えます。激しい変化に適応していくには教養や基礎教育が重要となり、学ぶ時間も多く必要です。また、学びなおしを目的としてのリカレントコースも不可欠となるでしょう。グローバル人材育成のためには大学全体を国際的な環境にしていくことが必須で、現在より更に多くの都市大生を海外に送り出すとともに、留学生の受

け入れも重要となります。

キャンパス環境については、2023年に世田谷キャンパスが生まれ変わります。それに合わせて等々力キャンパスを世田谷キャンパスに統合します。老朽化した10、12、13、15、16号などが順次解体され、その後にA地区に1棟、B地区に2棟の合計26,000平米の建物が建設を予定しています。コンセプトは、「地域に開かれた緑の公園キャンパス」であり、東京でも卓越した住宅街に溶け込んだキャンパスになります。

昨年11月に中央教育審議会から「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン〔答申〕」が公表されました。そこでは、「世界的規模の激しい社会的変化の中で、大学は教育と研究の本来的な機能の発揮を通じて、社会の将来的な発展の支え、推進する基盤となるものである」とし、「高等教育が個人個人の可能性を最大限に伸張する教育に転換することを期待する」としています。18歳人口は2040年には88万人に減少します。グローバル化も進み、グローバル化が死語になるでしょう。都市大の次の100年は、これまでの100年とはまったく異なる環境となることを自覚し、そのための教育、研究、キャンパス、大学運営体制の全てを、再構築していく必要があります。

引き続き、校友会の皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



西澤 信二氏

1984年武蔵工業大学工学部建築学科（笹原研究室）卒業、1984年東京急行電鉄（株）入社。デベロッパーの立場で大規模プロジェクトの企画・プロデュース業務、運営業務を担当。2001年に竣工したセルリアンタワーにおいては竣工後タワー全体の運営責任者として「セルリアンタワー東急ホテル」のブランド構築に貢献。その後「羽田エクセルホテル東急」「ザ・キャピトルホテル東急」などのホテル関連のプロジェクトを担当。2010年から渋谷ヒカリエプロジェクトの統括部長としてプロジェクトを推進し、竣工後の運営立ち上げに貢献すると共に、渋谷キャスト、渋谷ストリーム他渋谷エリアのプロジェクトを担当。一級建築士。

東京急行電鉄株式会社 都市創造本部 開発事業部 渋谷開発二部 統括部長 西澤信二  
主な担当業務

「世田谷ビジネススクエア」（93）、「八王子東急スクエア」（97）、「セルリアンタワー」（2001）、「羽田エクセルホテル東急」（2004）、「グランベリーモールシネコン棟」（2006）、「ホテル東急ビズフォート博多」（2009）、「東急キャピトルタワー、ザ・キャピトルホテル東急」（2010）、「渋谷ヒカリエ」（2012）、「渋谷キャスト」（2017）「渋谷ストリーム」（2018）

今回は、東京急行電鉄株式会社 都市創造本部 渋谷戦略事業 開発二部統括部長 西澤信二さんを、西澤さんが手がけられた東急電鉄本社隣接のセルリアンタワー東急ホテルにお訪ねしました。西澤信二さんは本年2018年秋に開業した「渋谷ストリーム」のプロジェクトの責任者として事業を先導し、2018年度の日経アーキテクチャ 「編集部が選ぶ10大建築人2019」に選定されました。

## 一本日はよろしくお願いたします。まず日経アーキテクチャ「編集部が選ぶ10大建築人2019」に選ばれてどう思われましたか？

日経アーキテクチャ編集部から「10大建築人2019」選定されたという連絡があった時に、なぜ自分なのかと思いました。過去の選定された方をみますと、安藤忠雄さんやそうそうたる建築家や建築人の方が選ばれているので、自分で良いのかと思いました。ただ、建築家ではなく、開発事業者として大きく変貌を遂げる渋谷の街づくりに貢献したという点で選ばれたと理解しました。大変光栄なことと思います。

## 一学生時代から東急電鉄への就職についてお尋ねします。なぜ武蔵工業大学の建築学科へ進学したのでしょうか？

当時は建築家になりたくて建築学科を志望していました。いくつかの大学に合格しましたが、父親の知人で大手建築設計事務所に勤務する方に、デザインを志すならば建築家も多く輩出している「武蔵工大がよい」と勧められ、入学しました。

## 一なぜ東急電鉄に就職されたのでしょうか？

4年生の時には建築学科の意匠系の研究室で笹原研究室に所属していました。意匠系の研究室でもあり建築家を目指していたこともあり、建築設計事務所を志望していました。就職活動中に指導教授の笹原先生から東急電鉄を勧められました。デザインをしたかったので躊躇していましたが、東急電鉄の建築系の方と面談する機会があり、建築職でも活躍できる場面があることを知り、入社することにしました。同期には現在、大手設計事務所やアトリエ事務所等で活躍されている建築家や大学教授もいます。皆さん建築家として活躍されていますが、私はデベロッパーの立場で、街づくり、デザインに参画できていることを嬉しく思っています。今となっては東急電鉄を勧めていただいた笹原先生に感謝しています。

## 一プロフィールを拝見しますと、様々なプロジェクトの企画・プロデュース業務、運営業務をご担当されてきましたが、今までのお仕事で難しいと思われたことはどんなことですか？

開発業務は、竣工までの限られた時間の中でコンセプトを掲げ、共有し、メンバー全員のベクトルを合わせる事が大切です。それはとても難しいことですが、プロジェクトに注がれる人間のエネルギーの総量を最大限に高めなければ時代を生き抜く施設、街は生まれません。また、運営業務は継続が大切なため、一日一日を追い込み過ぎてはいけません。しかしながらただ床を売ってれば数字が上がるのではなく、開発から運営まで一貫したブランド戦略を推進することが大切です。渋谷ヒカリエの運営を軌道に乗せ、施設、街のブランド価値を高めることは本当に難しいことでした。



吉田 育子氏

宮崎県出身 昭和37年東横学園女子短期大学 家政学科食物栄養学科を卒業。結婚後、新潟料理学校に勤務の傍ら、新潟大学教育学部に学び、新潟調理師専門学校校長を務められました。東横学園女子短期大学同窓会美砂会の新潟支部長の任を長くお受けいただき、校友会発足後は新潟支部副支部長としてご活躍いただいております。ここ数年は、新潟支部総会・懇親会を吉田氏の新潟調理師専門学校で開催していただき、毎回おいしい料理に舌鼓を打っております。

## 一東横学園女子短期大学を進学先として選んだ理由

高校時代から栄養士の道に進むことを決め、出身中学の校長だった松浦先生が東横学園女子短期大学で国文科の教授として赴任されており、私の保証人になってくださったのがきっかけでした。当時は宮崎から東京の大学へ行くというのは両親は心配だったと思います。そのようなわけで保証人の松浦先生のおかげで進学を両親は許してくれました。

## 一学生時代の思い出

親元を離れ寮生活でしたが、「楽しかった」の一言です。寮生は30名ほどでしたが、食事は三人一組となり一週間交代で食事当番があり朝食・夕食を作っていました。もちろん、地方からの人が寮に入るわけですので地方色がよく表れていました。面白いのは、南の人は納豆が苦手、北の人はめざしが頭から食べられない。私は今でも納豆が苦手な体が良いと思いついて無理をして食べていますが・・・

寮の門限は二十時、今では考えられないでしょう。

部屋は、六畳一間に三人。座り机があり、布団を敷くと足の踏み場もないほどでした。あの時代でしたので当たり前だと我慢できたのだと思います。

## 一仕事と家庭との両立で大変だったこと

私は、前校長（姑）の次女と東横学園女子短期大学時代同期でした。彼女の兄が私の夫になります。（寮も一緒でした）姑は、家庭第一主義だったので他の先生と違い早めに帰してもらっていました。そのようなわけで、あまり大変だと思ったことはありません。ただ、姑に仕えることは大変でした。明治生まれの人でしたので厳しかったですね。

学校（六階建て）がマンションの二階で、その一角が姑の住まい、私たちは五階に住んでいましたので、子供たちは学校から帰ってきても淋しい思いはなかったと思います。



## 大島章宏氏「旭日大綬章」授与される 受賞記念講演・祝賀会を開催

機親会会長 松村 慶一 (S49機械)

本学卒業生の大島章宏氏（1974年（昭和49年）機械工学科修士課程卒業）は、このたびの平成30年春の叙勲で「旭日大綬章」受章の栄を賜れました。大島氏の栄誉に対して、お祝いをするとともに、これまでに培った技術、教訓を本学学生はもとより、卒業生に対してその示唆を頂きたく、叙勲受章間もない7月21日に「旭日大綬章」受章記念講演・祝賀会（主催：機親会（機械系学科同窓会）、共催：東京都市大学、大島章宏とともに地球を考える会、協力：東京都市大学校友会）を開催しました。



大島氏は、卒業後(株)日立製作所に入社され、原子力設計に携わった後、1990年の衆議院議員選挙で初当選後、連続当選9回にわたり国政に取り組んできました。2010年9月経済産業大臣、2011年9月国土交通大臣を歴任されたほか、2017年までの27年間にわたり立法行政で活躍し、多くの成果を上げられました。2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、担当大臣として手腕を振るわれたことは記憶に残るところです。

受賞記念講演会では、五島育英会高橋理事長、三木大学学長、大学関係者、卒業生、そして現役学生の多くの方々に参加いただきました。また当日は、大島氏とも親しくしている政治評論家森田実氏、大島氏の奥様のご列席もあり、また大学新6号館のお披露目のかね、講演はいやがうえにも盛り上がりました。

### 記念講演の演題

「日本の未来と科学技術 ～人との出会いを大切に～」

- 1 日本と世界の近代史から何を学ぶか
- 2 地球人口増加とエネルギー需要の増加・経済発展の関係
- 3 経済産業大臣の時の出来事（レアアース輸入ストップと半導体生産危機）
- 4 国土交通大臣の時の出来事（東日本大震災から学ぶ）
- 5 東京都市大学・学生に求められる役割と期待



大島章宏氏の幼少期から学生時代そして現在までの生い立ちをつづりながら、時に自身が取り組んできた折々の課題とその取り組みを写真、またウイットを交えながらの講演で、まさに大島氏が志としてきた「至誠一貫」を垣間見ることができました。そして最後にこれからの学生に求める指針を示されました。それは大学の建学の精神「公正・自由・自治」として「未来は自ら創る」、「現場主義・一燈照隅」でした。

引続き五島記念館メモリアルホールにて祝賀会を開催しました。会場には、「旭日大綬章」が披露され、列席者のお祝いの言葉とともに、まさに祝賀の一色となりました。祝賀会を通して、先輩など多くの方々が参列したこともあって、学生時代にもどった歓談で、大島氏の人となりとそのまま会場の雰囲気となり、にぎやかな祝賀会となりました。今後の大島氏のご活躍を祈念するとともに、大学の発展を誓う場となりました。

大島氏「旭日大綬章」受賞記念講演会の講演内容、講演要旨集、講演会祝賀会の様子は、校友会ホームページ→機親会にてご覧いただけます。



現役学生との懇談



高橋理事長・三木学長との懇談



## 「日本遺産・大谷石文化」を探るバスツアー～大谷資料館等を巡る小旅行～

企画委員会委員長 金子 正樹 (S55経営)

校友会会員の皆様には企画委員会が開催する各種親睦行事にご参加、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

今回の親睦行事は「日本遺産・大谷石文化」を探るバスツアー～大谷資料館等を巡る小旅行～として平成30年11月17日に参加者39名（会員家族を含む）で実施いたしました。

午前8時30分に新宿駅西口を貸切バスで出発し自己紹介等を行いながら栃木県宇都宮市を目指しました。東北自動車道を経由し、宇都宮インターチェンジ付近から栃木支部の皆様と合流し定刻より若干遅れましたが大谷資料館に到着、大谷資料館ではガイドツアーで大谷石採掘場後の地下空間を見学しました。幻想的な地下大空間に何とも言えない感覚を味わいました。昼食会場までの移動中には途中合流の塩田栃木支部長から大谷資料館周辺の大谷石建物の紹介や大谷石素材のお話を伺い、宇都宮市周辺の大谷石建物の素晴らしさを教えていただきました。

昼食は宇都宮駅近くで餃子の町宇都宮ならではの餃子専門店にて4種類の餃子が楽しめる定食を味わいました。

午後は那須烏山市まで足を延ばし紅葉が映える絶景の龍門の滝を見学し栃木県の自然の豊かさを体感しました。さらに旧日本軍の地下工場跡の洞窟を利用した酒蔵の島崎酒造を見学し洞窟内の安定した温度により熟成された日本酒等を試飲しました。気に入ったお酒を購入された参加者も多かったようです。（売店は大繁盛に見えました）

見学後は宇都宮インター近くで栃木支部の皆様とはお別れし新宿にもどりました。帰路は東北自動車道の事故渋滞で迂回したため新宿到着は20時20分頃となりました。

一日のバス旅行でお知り合いの皆様のみならず、初対面の皆様、初参加の皆様も親睦を深められ最後は旧知の友のように和気あいのツアーとなりました。

また、今回は栃木支部の皆様には様々なご助力をたまわりまして誠にありがとうございました。（東京近郊の支部の皆様には地元ならではの企画等がありましたらご紹介いただくと今後の行事立案に生かせるのではと考えておりますのでよろしく願いたします）

校友会会員の皆様の親睦を深めるために企画委員会はこれまでも親睦行事を行ってまいりました。今後もより多くの会員の皆様にご参加いただける行事を行ってまいりたいと考えておりますのでよろしく願いたします。



## 川崎支部主催 第二回講演会（吉田勝校友会前会長）

川崎支部 支部長 赤津 武雄（S40電気）

台風12号が関東に近づき、二子玉川の夢キャンパスが暴風雨内に入りましたが、30名以上の方が講演会に、その後の自由が丘クラブでの懇親会にも20名以上の方が強雨・強風の台風の中、駆け付けて下さいました。女性役員からの花束進呈も有り、和やかなパーティとなりました。

25歳で現在のPAO設計事務所を立ち上げ、地域に根差した設計を信条にしています。敷地の細長い診療所+住居の作品では、半円を強調した外壁で、視覚的に先まで連続した奥行きを伸長する物件が印象に残ります。半円の先はどの様になっているか、思わず人を誘います。

吉田前会長の提案は、数種類のプランを用意するのではなく、練りに練った最善の提案で、住む方や周囲との調和を満足させるとのことでした。たとえ小物件でも大型物件でも、一切の手抜きはしないで全身全霊で完成させ、コンクリート打設時にも現場に立会い、自分の目で確認をするのです。だから、リーピーターが増えているのです。

施主によっては、月末に多めの支払いで資金繰りまで考慮して、まるで兄弟や親子の様にかわいがってくれたそうです。それだけ、吉田前会長は伸びるとの予感をさせる人格なのでしょう。人徳ですね。

最初は、現地をじっくりと観察し、傾斜や不陸、以前は田圃の様に過去の地図も勘察します。近隣の土地や建物が10年後、20年後はどの様になるか、生活はどの様になるかも想像します。街全体の雰囲気になじみ、清々しい気分になる様に設計をします。

次に、現場に足繁く通い、職人と共に材料の搬出入、材料の購入も手伝い、過去の成功談や失敗談を覚えておき、作品に反映させます。職人と相談をしながら、自分がどうの様にしたいのかを作品として仕上げています。

そして、素直になることです。つまらないプライド優先ではなく、解らないことは素直に教えを乞うことです。自分の扉を広く開放することで、可能性が広がります。

最後に、お孫さんとの共同制作の模型を完成させたり、仏像の補修をしたりと、八面六臂の活躍をされています。まるで千手観音ですね。

今まで校友会員を指導して頂き、本当に感謝しています。また、川崎支部主催の青梅市の小澤酒造見学ツアーにも参加して頂き、川崎支部員一同感激でした。（幻の酒 凰（こう）（王者の味わい）、元禄（木桶仕込みで江戸時代の味ー琥珀色）等を堪能しました。）



ご意見・質問は山岸（窓口）迄（k\_yamagishi@6kou.co.jp）、お願いします。



昨年度の石川支部、福井支部、高知支部、香川支部の発足に引き続き、新たに岩手支部が発足し、全国44支部の内41支部で総会懇親会、講演会、レクリエーション（ゴルフ、親睦旅行など）が開催されました。本年度の特徴は、各支部主催による本学先生、卒業生による講演会の開催です。卒業生はもとより、地方の方々に本学を知っていただく機会、また、地域の皆様との交流の場ともなりました。※今後の予定等については校友会ホームページに掲載していきますのでご覧ください。

## 平成30年度 地方支部講演会実績

<p><b>特別講演（一般市民参加型）</b></p> <p><b>島根支部（H30.4.21 島根県立産業交流会館）</b> 「21世紀のまちづくりー カルチャルサステナビリティ（文化的持続可能性）」 新居 千秋氏 （元建築学科教授・S46建築卒（株）新居千秋都市建築設計）</p>	<p><b>長野支部（H30.6.2 東京都市大学塩尻高校）</b> 「五島慶太先生の生涯に学ぶ」 重永 睦夫氏（東京都市大学付属小学校 校長）</p> <p><b>新潟支部（H30.10.13新潟調理師専門学校）</b> 「お風呂・温泉を使った健康づくり」 早坂 信哉氏（人間科学部 教授）</p>
<p><b>支部講演（支部会員向講演会）</b></p> <p><b>福島支部（H30.6.2）</b> 「武蔵工大炉のあゆみとその後の状況」 内山 孝文氏（原子力研究所 技士・H13エネルギー基礎）</p> <p><b>秋田支部（H30.6.16）</b> 「県・市連携文化施設について」 勝又 英明氏（建築学科・主任教授・S55建築卒）</p> <p><b>香川支部（H30.6.30）</b> 「大学がなくなると地方と都市の未来」 坂倉 杏介氏（都市生活学部 准教授）</p> <p><b>鳥取支部（H30.7.7）</b> 「現代の大学生の気質について」 住田 暁弘氏（学生支援部 部長）</p>	<p><b>東海支部（H30.7.7）</b> 「朝鮮半島における今後の展望」 李 洪千氏（メディア情報学部 准教授）</p> <p><b>栃木支部（H30.7.14）</b> 「子どもの心の育ちにとって大切な柱とかかわり方」 井戸 ゆかり氏（人間科学部 学部長）</p> <p><b>静岡支部（H30.9.2）</b> 「東京都市大学の歴史」 白木 尚人氏（機械工学科 教授・H3機械卒）</p> <p><b>宮城支部（H30.10.20）</b> 「都市インフラの災害リスクと防災・減災について」 丸山 収氏（都市工学科 主任教授・S58土木卒）</p> <p><b>兵庫支部総会（H30.11.10）</b> 「お風呂・温泉を使った健康づくり」 早坂 信哉氏（人間科学部 教授）</p>

## 地方支部総会開催一覧

支部名	開催日	開催場所	次年度開催予定日	支部名	開催日	開催場所	次年度開催予定日
北海道	8/24 (土)	ホテルモントレー・エーデルホフ	未定	京滋	5/26 (土)	琵琶湖ホテル	5/25 (土)
青森	9/29 (土)	八戸プラザホテル別館グレースホール	未定	大阪奈良	10/20 (土)	大阪マルビル第一ホテル	10月
岩手	6/9 (土)	ホテルルイズ盛岡	6月上旬	兵庫	11/10 (土)	三宮東急REIホテル	11/17 (日)
宮城	10/20 (土)	仙台ガーデンパレス	10月	和歌山	11/11 (日)	ホテルシティイン和歌山	秋
秋田	6/16 (土)	秋田キャッスルホテル	6月	岡山	2/16 (土)	メルパルク岡山	10/12 (土)
山形	6/30 (土)	ホテルメトロポリタン山形	7月初旬の土曜日	広島	6/9 (土)	ホテルセンチュリー 21	6/8 (土)
福島	6/2 (土)	ホテルニューパレス	5/25 (土)～26 (日)	山口	6/2 (土)	イチ (I-CHI)	5月下旬～6月上旬
茨城	今年度開催なし（隔年開催のため）		6/29 (土)	鳥取	7/7 (土)	皆生シーサイドホテル	7/6 (土)
栃木	7/14 (土)	ホテルマイステイズ宇都宮	7月	島根	4/21 (土)	サンラポーむらくも	6月
埼玉	9/8 (土)	東天紅 J A C K 大宮店	9/7 (土)	徳島	6/21 (木)	味の城	6月
千葉	7/7 (土)	千葉スカイウィング東天紅	7/6 (土)	香川	6/30 (土)	まなびCAN	6月第4土曜日
横浜	11/24 (土)	東京都市大学 横浜キャンパス	10月	愛媛	6/2 (土)	伊予鉄会館	6/1 (土)
川崎	11/24 (土)	東京都市大学 横浜キャンパス	10月	高知	6/16 (土)	とさしっぽく葉山	5/25 (土)
湘南	11/24 (土)	東京都市大学 横浜キャンパス	10月	福岡	11/24 (土)	ホテルクリオコート博多	11月
長野	6/2 (土)	ホテル中村屋	7月	長崎	10/27 (土)	ホテルニュー長崎	10/6 (日)
新潟	10/13 (土)	新潟調理師専門学校	10月の土曜日	佐賀	11/9 (土)	グランデはがくれ	10/19 (土)
富山	7/21 (土)	富山電気ビル	7月	熊本	10/12 (金)	K K R ホテル熊本	10月
石川	次年度に繰越		4/27 (土)	大分	11/10 (土)	トキハ会館	11/9 (土)
福井	12/1 (土)	ウエルアオッサ	11/30 (土)	鹿児島	9/8 (土)	ホテルレクストン鹿児島	9/14 (土)
東海	7/7 (土)	トヨタ産業技術記念館	7月第1(土)又は第2(土)	宮崎	10/28 (日)	ホテルニューウエルシティ	11月中旬
静岡	9/2 (日)	静岡グランドホテル中島屋	9/7 (土)	沖縄	2/23 (土)	ホテルロイヤルオリオン	10月

# 地方支部だより

## ◆新潟支部

支部設立55周年記念講演会を開催

支部長 日野浦 広昭 (S48土木)

平成30年10月13日(土)に新潟県支部創設55周年記念講演会を、講師に人間科学部の早坂信哉教授をお招きし、「お風呂・温泉を使った健康づくり～今から使える入浴法～」という演題で新潟調理師専門学校講堂を会場として開催しました。記念行事をやるからには本学の知名度を上げる一助にしたいと一年近く前に検討を始め、校友会本部を通じて早坂先生から一般聴講者をも対象とした講演会への了承を頂いて本格的に準備に入りました。会場の選定、チラシの作成、後援の取り付け、一般聴講者への周知、アピールの方法その他諸々の件について何度も幹事が集まって検討し、知恵を出し合い進めて来ました。新潟県、新潟市、公益財団法人新潟県健康づくり財団、新潟日報社から後援を取り付け、テレビ局及び新聞社にもお願いに回り日本経済新聞、産経新聞、読売新聞そして地元のフリーペーパーなどにも開催予定を掲載してもらいました。広く県内にチラシを配り、事前に参加希望を取って、入念に受け入れ態勢も整えた結果、当日は本部より原口会長にも来ていただき、一般聴講者、来賓、会員で130名近くの方から参加していただきました。先生のユーモアを交えた具体的な話を伺い、その後には活発な質疑応答もあり、聴衆の皆さんには非常に好評をいただきました。最後に本企画に対しまして松村副会長をはじめ校友会本部の皆様から多大なる御支援を頂きましたことに感謝し、お礼を申し上げます。



## ◆岩手支部

新発足そして支部歌は『北国の春』

支部長 飯沼 猛 (S42機械)

永い間、休眠状態であった武蔵工業大学岩手支部でありましたが、改めて東京都市大学校友会岩手支部として東横学園女子短期大学も包括した組織として立ち上げることが出来ました。同窓生として、異なる世代との気持ちの良い交流を通じて、互いに何かを学び、今後の人生に活かす事が、結果として、東京都市大学の発展につながる。との基本理念に基づき、規約の目的を「本会は会員相互の親睦を厚くし、東京都市大学の発展に寄与すること」としました。武蔵工業大学系8名、東横学園女子短期大学系4名、東京都市大学1名、合計13名、校友会本部から5名出席頂きました。来賓、支部会員全員による自己紹介及び近況報告をする中で、個々の質疑応答があり、メンバーの仕事、趣味を知ることにより話題が増え、より懇親を深めることができた。締めくくりの校歌斉唱は全員で歌える校歌がないので、岩手県出身の歌手、千昌夫の『北国の春』を岩手支部歌としての斉唱し盛り上がった。二次会(カラオケ)は13名の参加で寛いだ雰囲気の中で時間の過ぎるのを感じなかった。

## ◆長野支部

付属塩尻高校との交流『五島慶太先生の生涯に学ぶ』の講演

部長 高橋 重徳 (S45建築)

平成30年度(16+4期)の支部総会は、6月2日(土)に会員30名の参加で開催されました。総会に先立ち、同時開催された講演会は、塩尻高等学校の特別教室をお借りして生徒の皆様は授業の一環とし、探究コースの在校生54名と教職員・ご来賓の皆様と一緒にお話を聞く機会となりました。

長野支部では、毎年、塩尻高等学校にスポーツ活動支援や文化祭(柏祭)に展示ブースを設けさせて頂き、生徒及び父兄の皆様とも交流しています。主に東京都市大学のPR活動と卒業生の社会活動や企業の紹介を行っています。今後も開かれた視点で事業の推進を目指したいと考えております。

この度の講演会は、テーマを『五島慶太先生の生涯に学ぶ』と題し、東京都市大学付属小学校長の重永睦夫先生をお迎えし、先生のご生涯を様々な切口で、分かり易く、時にはユーモアを交えて約90分のご講演を頂きました。

五島慶太先生の長野県青木村ご出身の生い立ちから、特に教育や人材育成にける思いが強く、学校の母体である五島育英会の礎を築き、大学を頂点とする総合学園化にご尽力されたお姿を熱く語って頂きました。県人である先人の偉業を詳しく知らないでいた事もあり、改めて、先生の偉大さに感銘を受けると共に、東京都市大学の卒業生として、感謝と誇りの気持ちをもち続けたいと思います。また、ご縁の深い塩尻高等学校で開催できたことは一層感慨深いものとなりました。



(講演会終了後、会員・生徒一同にて記念撮影)

## ◆兵庫支部

特別講演『お風呂温泉を使った健康づくり』(人間科学部早坂先生)とバーベキューパーティ

支部長 平井 景三 (S46通信)

兵庫支部初めての試みとしてバーベキューパーティを関西地区の三支部の方々の参加をいただき、平成30年9月29日(土)、



芦屋マリーナ内レストランの屋外テラスにて開催しました。目の前に広がる大型クルーザ、青い海（残念ながら当日は台風24号が接近する中で青い海は臨めませんでした）という絶好のロケーションの中、オマール海老はじめ豪華食材をバーベキューで頂きながら会員相互の情報交換、思い出話等楽しいひと時を過ごしました。最後は兵庫支部田中顧問による手締めとなり、総会前に実施した新企画は成功裏に閉会しました。

平成30年度の総会（平成30年11月10日（土））では全国で引っ張りだこの早坂教授をお招きして講演「お風呂温泉を使った健康づくり」を行いQ&Aも盛り上がり、入浴に関する普段の疑問も解消したのではないのでしょうか。また、新たな企画として総会後の懇親会の中でジャズのライブコンサートを開き、ジャズの街神戸ならではの時間を共有することが出来ました。

今回の総会での出来事の特記事項として、新たに支部幹事が2名（新美砂会1名、旧武蔵工大1名）も新規就任頂いたことをご報告いたします。どちらの支部でも幹事役の後任選出にご苦労されておるなかうれしい限りです。

### ◆京滋支部

「びわ湖の渚でBBQ」、新年会、ゴルフなど家族参加型、支部間交流の輪

支部長 廣原 美照（S51経営）

当支部では会員間だけでなく、家族間、近隣他支部間、その家族間の交流も含め様々な交流を計っております。総会はもちろんですが、好評なのが春のGW当初、4月末日曜日に開催設定のバーベキュー（BBQ）親睦パーティーです。



名付けて『びわ湖の渚でBBQ!』ロケーションの良い湖畔で、家族の休日を兼ねて奥様はもちろん小学生や幼児、乳母車の乳児の参加もあります。また近隣支部からも多数参加いただき、毎年皆勤参加で楽しみにして下さっている方々もおられます。



H30 第三回BBQ親睦会

発案はウォーキングで目的地到着後のBBQ打ち上げ、ここから数

えてもう過去5回の開催で年々盛り上がりを見せています。

そのほかやはり恒例の新年会やウォーキング、ゴルフ、そし



ゴルフ同好会

て関西他支部企画への参加など、年間7~8回程の企画で会員間、家族間、他支部間の親睦交流を行っております。京都、滋賀の皆様はもちろんのこと関西一円、近隣他府県にお住まいの皆様、ぜひ気楽にお問い合わせの上で参加のほどお待ちしております。



H30総会・懇親会後の二次会

### ◆島根支部

新居千秋（S46年建築卒）による特別講演開催

「21世紀のまちづくりカルチュラルサステナビリティ」

事務局 佐藤 公紀（S50機械）

島根支部発足6年目を迎え、この度平成30年度の島根支部総会を開催することになりました。大学の合併により地方では知名度が低い新大学名である東京都市大学のPRを兼ねて著名な方の特別講演会を一般公開で開催することを役員会で決定しました。島根県益田市のご出身で、本学教授であった著名な建築家で武蔵工業大学S46建築ご卒業の新居千秋先生（株）新居千秋都市建築設計代表取締役）のご講演をお願いすることになりました。松村副会長や如学会の方々のご尽力により、新居先生にはご多忙の中、快くお引き受けいただきました。

演題は「21世紀のまちづくりカルチュラルサステナビリティ（文化的持続可能性）」で、これまで先生が取り組まれた様々な公共建築やハウジングなど、映像を使って詳細にお話していただきました。ワークショップを通じて、その地域に調和した、元気の出る建築物を市民とともに計画するといった内容のご講演に、聴講した多くの方が感銘を受けました。開催に当たって、島根県建築士会等の諸団体、報道機関の方々にもご協力いただきましたが、開催の10日前に島根県西部地震が発生したため、建築士の方々が対策に追われ、50名の参加者にとどまったのが残念でした。講演会の後の質疑応答では、活発なディスカッションができ、無事終了できましたことを関係各位に御礼申し上げます。



# 地方支部だより

## ◆高知支部

若い力で支部の発足 校友会に新しい風を!

支部長 有光 孝仁 (H11建築)

高知支部の始まりは、「武蔵工大のOB会組織、東京以外はほとんどあるらしいけど、高知がまだないみたいやけん、お前やってくれんね?」という、大学時代に大変お世話になったハンドボール部の先輩からの1本の電話でした。最初は、「ま、これも何かの縁だから、立ち上げのお手伝いくらいはしようかな。」ということで、半ば渋々動き始めました(笑)。松村副会長や事務局のサポートもあり、四国の他支部の総会や中四国の支部長会に参加するうちに、時期や学科は違えど同じキャンパスで学んで諸先輩方から可愛がっていただき、いつしかこの縁を高知県在住の卒業生にも広めていきたいと思うようになり、平成30年2月3日に無事に設立することができました。結局、支部長も務めさせていただくこととなり、現在までに2回の会合を行い、新美砂会の方も含めてのべ40名の方にご参加いただきました。酒の国土佐では、「盃を交わせば友となる」と言わんばかりに、幅広い世代が仲良く交流を深めております。まだまだ、「東京都市大学」という響きが聞き慣れないメンバーばかりですが、東京都市大学校友会に新しい風を入れていきたいと思っておりますので、今後とも高知支部の活動にご期待ください。この場をお借りして、佐賀支部の馬場友幸先輩に、高知支部設立のきっかけをいただいたことを、深くお礼申し上げます。



## ◆広島支部

81歳石沢氏『中海オープンウォータースイム2018』参加紹介

支部長 山田 正一 (S44土木)

当支部は、2020年に花と緑の祭典である『全国都市緑化ひろしまフェア』に合わせ、造園家で母校の浦井史郎特別教授の記念講演会を計画中です。詳細が決まり次第、校友会ホームページに掲載させていただきますので、しばらくお待ちください。



石沢睦夫氏前列右より3人目

平成30年11月10日(土)、広島支部『秋の懇親会』を開催しまして、その時に『中海オープンウォータースイム2018』に参加された石沢睦夫さん(S34電気)の話をお聞きしました。石沢さんより原稿をお寄せいただきましたので、ご紹介させていただきます。

## 81才のOWS初挑戦

石沢 睦夫 (S34電気)

校友会広島支部『秋の懇親会』でのこと(11月10日)、会の中程に至って「非常に珍しく、また大変おめでたい事なので、是非皆さんに披露してください」と司会者に紹介され、登壇スピーチとなりました。手には『中海オープンウォータースイム2018 種目5km総合、順位32位、時間2時間9分21秒0』のディプロマ(証明書)を掲示してのことです。

実は春の総会後の懇親会で、私がこの種の大会に出場することがご臨席頂いた皆川副学長初め、中四国8支部長等の話題となったもので、その結果、報告の必要がありました。

ディプロマは完泳の証ですが、私自身は若いころからのシティーランナーで、水泳大会は81才にして初の挑戦でした。それが出来たのは練習環境に恵まれていたからです。市営スポーツセンターまで数分の距離、駐車場は無料、プール利用料は1ヶ月2,400円の世界でした。

練習目標は時速3kmで連続1時間以上と定め、合格点でした。そこで本番での制限時間は2時間30分のため、速度を時速2.5kmに下げて2時間頑張ることで楽々クリヤーできました。

私は現在泳ぐだけでなく、週2日はジョギングを楽しんでおります。それと云うのも泳ぐだけではウエストサイズが縮小しないからです。どうも私のような高齢者でも人類(ホモ・サピエンス)としては歩行や走りが必要のようです。お蔭さまで今の私には持病は皆無です。どうぞ皆さんも健康維持のために、何か得意なスポーツを継続して楽しんで頂きたいと思っております。

## ◆福井支部

設立総会開催 福井新聞「旧友再会」に掲載される

支部長 荒井 由紀夫 (S49経営)

平成30年4月28日に設立総会を開催致しました。当日は校友会本部役員の皆様や近県の支部長様のご来賓を含めて20名の方々にお集まりを頂き、福井支部をスタートさせました。

当初、平成29年度に福井支部を立ち上げようと松村副会長のご支援を賜り打ち合わせを重ねて、準備してきましたが、設立総会は平成30年度にずれ込んでしまいました。しかしながら福



2018/4/28

井支部も校友会の仲間入りが出来ましたことは、本当に嬉しい事と思われま。地元福井新聞「旧友再会」コーナーに設立総会の写真とコメントを投稿し平成30年9月24日朝刊に掲載されました。何人かの会員さんから連絡を頂きました。少しでも、福井支部の存在を知っていただけたと感じています。

さらに、12月1日には平成30年度総会・懇親会を開催致しました。こちら、校友会本部役員の皆様や近隣の支部長様のご来賓を含めて17名の方々にご参加頂きました。一人でも多くの福井支部会員さんと交流できるように、今後も支部活動を続けていきたいと考えています。

### ◆香川支部

新発足そして講演は『大学がつなぐ地方と都市の未来』（都市生活学部 板倉先生）

支部長 尾崎 竹延 (S53経営)

昨年、平成29年7月8日に支部設立準備会、11月11日に香川支部総会を開催することが出来たことはひとえに皆様方のご協力御支援の賜物と思ひます。特に校友会本部の御支援は本当にありがたく思ひました。本年、平成30年4月28日には香川支部ゴルフコンペを開催し校友会本部、徳島支部、愛媛支部からも出席していただいてコンペの形をとることができましたが、今後は香川支部単独のゴルフコンペ開催は困難なため各支部合同の開催をお願いしたいと思ひております。6月30日には第2回香川支部総会を開催し、総会に先立ち東京都市大学都市生活学部准教授坂倉杏介先生を講師にお迎えし、「大学がつなぐ地方と都市の未来」をテーマに御講演いただきました。大変失礼な話ですが、都市生活学部に対する認識が東横学園女子短期大学の延長線上の学部くらい程度でしたが講演を聞かせていただくと非常に科学的であり文系理系関係なく実学的で大変興味深い内容でした。さて昭和60年頃の香川支部は黒川支部長のもとで当時40年代卒のバイタリティーあふれる方々が数多く出席されて生き生きとした支部会でした。現在の香川支部を取り巻く環境を考えますと香川県から東京都市大学を受験する高校生はおらず当然入学者も卒業生もいません。総会に出席されるのはすべて武蔵工業大学卒業生（都市大学卒業生のほとんどが地元にはない）という現状です。香川支部存続には東京都市大学を多くの高校及び一般の方々に認知してもらいまずは受験したいと思ひていただけるよう環境を地道に本部のご協力を得て支部会活動を通じて作っていかねばと思ひます。先日出身の高校へ伺って進学指導の先生と懇談して状況をお聞きしたところ進学先は関西地区が中心で関東地区への進学は非常に少ないとのこと

です。理由を聞きますと意外なことに地震がネックで敬遠されているとのこと。状況に変化がないとすれば香川支部単独での活動は益々困難になるため、四国中国地区の支部の皆様との連携を強化させていただき当支部だけでは解決



できない事案もご協力をお願いしながら活動していこうと思ひます。本部ならびに各支部の皆様には今後とも御支援のほど宜しくお願いいたします。

### ◆佐賀支部

都市大H28年卒業生の参加

支部長 横山 敬司 (S54経営)

来年2019年10月20日（日）唐津市高齢者ふれあい会館「りふれホール」において「唐津市すこやか健康ふれあい福祉まつり」のメインプログラムとして東京都市大学の先生による特別講演会を予定しています。詳細は決まり次第、校友会ホームページに掲載となります。

佐賀支部だよりとして、今年初めて支部総会に参加されました島田 優 様（H28原子力安全工学科）より支部総会・懇親会ご報告をさせていただきます。

佐賀支部だより～初めて参加してみよう～

島田 優（H28原子力安全工学科）

平成30年11月9日に佐賀市内の“グランデはがくれ”にて開催された佐賀支部総会および懇親会にしまして、この度校友会新入会員として初めて参加した小生がご報告申し上げます。

今年度の総会では以下の報告があげられました。

- ①事務局報告
  - ・会計報告
  - ・大学施設の今後の計画の紹介 等
- ②次年度総会について
- ③今後の事業について

なお松村校友会副会長をはじめ、他支部からご来賓の皆さまのご列席いただきましたので、総会の開催に先立ご挨拶ご紹介を賜り、他支部との連携も含め実りある総会となりました。

14名の参加のあった総会、うち佐賀支部内からの参加者は8名と、佐賀支部自体は所帯の小さな支部であります。横山敬司（S54経営）支部長を筆頭に結束力が強く、支部愛の強い組織です。

出身は神奈川県ではありますが、現在勤める会社（九州電力）に入社したのを機に、佐賀県に根をおろして三年が過ぎようとしております。小生と同じく出身地と異なる地域で活躍なさっている卒業生は多くいらっしゃることでしょう。このたびの総会で小生自身気づきの多い学びの場となり、諸先輩方と交友を広げる貴重な場となりました。是非とも若年層の卒業生の皆さまにも一度各支部の総会や行事に参加することで、今一度東京都市大・武蔵工大の交流を深め、自信の財産としてみては如何でしょうか。そして現在各支部を運営されている先輩方も快く受け入れてくださることと思ひます。



# 職場支部だより

## ◆鹿島柏会支部

事務局 齋藤 和也 (H13建築)

鹿島柏会支部は、東京都市大学（旧：武蔵工業大学）を卒業し、鹿島建設並びにグループ会社に在籍する社員で構成されています。現在、在籍会員数は200名近くおり、会員相互の親睦を深めることを目的として活動しています。

### ■支部総会兼新入会員歓迎会（2018年4月）

4月4日に校友会より吉田会長、松村副会長、望月職場支部部会長、都市工学科より丸山教授、白旗教授、伊藤准教授、建築学科より天野教授、勝又教授、西村教授、電気電子工学科より野平教授のご臨席を賜り、当社本社にて開催しました。2018年度は当社に6名、グループ会社に2名、合計8名の新入社員を迎えることができました。

### ■進路支援活動（2018年11,12月）

11月21日に如学会主催の「進路支援ガイダンス」に参加し、12月4日には当社単独での「学内進路相談会」を開催させて頂きました。参加者は皆、都市大OBであり、当社への志望如何に関わらず、まずは大学の先輩として、後輩に悔いのない進路選択をして欲しいという気持ちで接しています。

### ■2019年度活動予定

2019年度も前年度同様、4月の総会から11月の進路支援ガイダンス等の就職支援まで継続して取り組む予定です。

最後に、本支部総会等の活動に対する、校友会、大学、会員他、多くの皆様のご指導、ご協力に改めて御礼申し上げます。



## 職場支部総会 開催ご報告

### ◆川崎市役所支部

日時：平成30年2月9日（金）～10日（土）一泊

場所：熱海 ホテルニューアカオ

出席者数：川崎市役所の会員が61名 校友会本部より3名 計64名の参加でした。



## ◆大成柏会支部

日時：平成30年3月29日（木）

場所：Y's エステックビル

出席者数：会員51名 + 新入社員8名（1名欠席）  
+ 学校関係者7名（校友会3名、教授4名）



## ◆飛鳥柏会支部

日時 2018年11月16日（金）

場所 東天紅 東京国際フォーラム店

当日の出席者数

合計26名（OB 2名、現役17名、来賓5名、内定者1名、社内1名）  
トピックスとして

平成31年度入社内定者・都市工学科の塚本大毅さんが出席  
（写真：中段中央）。



## ◆横浜市役所支部

日時：平成30年11月29日（木）

場所：ホテル横浜ガーデン

出席者数

現役会員：64人

賛助会員（OB+副市長）：11人

来賓（丸山教授、校友会来賓）：3人

計78人



## ◆校友会館自由が丘クラブ

東京都市大学校友会館・自由が丘クラブは、2つの会議室とサロンがあり、東京都市大学 校友会会員であればクラス会、クラブOB・OG会などの打合せ、会議や懇親会など自由に利用できます。

- 場所：自由が丘駅からバス通りを田園調布駅方向に徒歩約7分
  - 利用可能施設：会議室「柏」、「桐」、サロン
  - 利用可能時間：火～土曜日13～17時、18～21時（原則）
  - 利用料金：東京都市大学校友会会員は室料無料
  - 利用申込：ホームページから、または電話で
  - Wi-Fi：利用可能
  - 食事：弁当、飲み物、宴会などお問い合わせください
  - 詳細：ホームページから、またはお問い合わせください
  - 問い合わせ：メール、電話で
- 電話・ファックス：03-3721-1052（火～金曜13～17時）
- E-mail：mitkaikan@kiu.biglobe.ne.jp
- URL：https://jiyugaoka.club/
- 住所：158-0083 東京都世田谷区奥沢5-37-9  
武蔵アビタシオン 2階 （株）武蔵工業会館



## ◆柏三水会

会長 石田 彌 (S45電気)

平成30年6月の柏三水会総会で第九代の会長に推挙頂きました。微力を尽くし会の発展に努めて参ります。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

さて、当会は昭和47年5月に林田実様（S8土木）を初代会長として創立され平成28年10月に創立45周年記念式典を開催致しました。企業の経営者や経営幹部の職にある方々の集まりで、かつ学科を超え人の集まりでもあり、会員は日頃の活動を通して、同窓という関係から経営に関する相談や情報交換がより深くでき、また他学科の同窓生との交友や人脈の和が広がる場所に本会の大きな特徴があります。

平成30年度の活動をご紹介致します。

- ・定期総会（平成30年6月23日 講演：本学・都市生活学部 西山俊樹准教授「近未来の交通と我々の生活」）
- ・セミナー二回（平成30年11月14日 本学・工学部機械工学科 白木尚人教授 H03機械 ～柏三水会から後輩たちへ相伝「本学の創立の経緯と建学の精神」、他に一回予定）
- ・校友会賀詞交換会に参加（平成31年1月）
- ・旅行会（平成30年10月18日～22日 ドバイ・アブダビ 都市建設視察 如学会との共催、平成31年2月7～8日 伊豆の温泉、河津桜巡り）
- ・その他（校友会総会への参加推進や、第三水曜日に年3～4回程度の交流会（柏三水会の名称の由来）を実施）



## ◆柏門技術士会

会長 佐藤 貢一 (S60土木)

技術士第一次試験合格者全国大学ランキング第5位！

技術士は、科学技術の応用面に携わる技術者の最も権威のある国家資格で、科学技術全領域に渡る分野をカバーしており、現在、21の技術部門が設けられています。

柏門技術士会は本校の卒業生技術士からなる組織です。創設以来、今年で15周年を迎えました。柏門技術士会の代表的な活動として東京都市大学での授業やガイダンスに参加していることがあげられます。JABBE教育の一環として都市工学科で技術者倫理の授業を14年継続して柏門の担当者が実施しています。近年では都市工学科（3年生）、機械工学科（1年生）、一般の学生を対象に世田谷・横浜キャンパスにて技術士制度の説明をガイダンスとして実施しています。都市大生へ専門分野で社会に貢献する第一線のエンジニアとなるよう啓蒙活動を進めています。

技術士は第一次試験（技術士補として従事、JABBE教育卒業と同資格）と第二次試験（技術士として従事）があり、第一次試験は学生も受験可能です。平成25年度技術士第一次試験の都市大現役生合格者は、たった1名でしたが、平成29年度は49名となり全国大学ランキング5位にステップアップいたしました。この結果は校友会の多大なるご協力の下果たせたものです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

これからの日本は少子高齢化・人口減少の中、高度な社会活動を維持するために深く多様な技術を総合的に形成でき、グローバルで異文化を許容できる技術者が必要とされます。校友会は異なった学部学科の集団でこれからの社会に必要な人材を育成する大学教育に必要な組織であると確信しております。これから本会も校友会の一助を担うことができれば幸いです。

## ■機械工学科

主任教授 眞保 良吉

卒業生の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成30年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

この3月の機械工学科の卒業生は89名で、また大学院の修士修了生は25名でした。また4月では、学部の新1年生が111名(うち女子が10名)、大学院修士は28名入学という結果でした。学部の新1年生のTAP(2年後期でのオーストラリア留学プログラム)登録者は、本年度は16名となっています。

教員につきましては、機械力学研究室に杉町敏之先生が准教授として、また内燃機関工学研に及川昌訓先生が講師として就任され、これにより機械工学科では6研究室全てが3名の教員体制を整えることができました。

本年度の新入生のフレッシュャーズキャンプは、山梨県(宿泊:石和温泉)にて実施いたしました。従来のバレーボール大会に替え、今回は、長縄跳び、サッカーリフティング、紙飛行機遠投など、学生の協調性、特技、知力を試す5種の競技を行い、大いに盛り上がり学生相互の親密化を図りました。また2日目は八王子にある日野オートプラザを見学しました(写真)。



機械工学科は昨年度、JABEE(日本技術者教育認定機構)の技術者教育プログラムの審査を申し込み、認定を受けることができました。今後とも学科教員一同、教育・研究の改善に努めてまいります。

## ■機械システム工学科

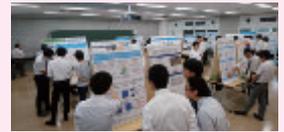
主任教授 野中 謙一郎

機械システム工学科は平成30年度で設立21年目となりました。校友会の皆様のご支援に改めて感謝申し上げます。

平成30年3月に第18期生94名が卒業、機械システム工学専攻修士37名と博士2名が修了し、4月には学部新入生121名、大学院35名が入学しました。教員では長年ご指導頂いた大谷眞一先生が3月に定年退職され、4月から秋田貢一教授が着任しました。また田中康寛教授がIEEE Caixin Sun and Stan Grzybowski Lifetime Achievement Awardを受賞しました。

行事では、4月に新入生研修行事のフレッシュャーズキャンプを筑波で開催しました。学園祭期間中の11月3日には学科の卒業生を招いたイベントMESSAGE(Mechanical Systems Symposium by all Ages)を開催しました。第9回の今回も、卒業生の基調講演とパネルディスカッションを行い、出席した在校生79名にメッセージが送られました。卒業生も25名が参加し、懇親会で旧交を温めました。

さて平成30年度の大学院の再編に伴い、機械システム工学専攻は、機械工学専攻と合体して機械専攻の中の機械システム工学領域という位置づけになりました。専攻の垣根を払い幅広い研究教育活動を行いながら、専門性を一層深める所存です。7月21日には機械システム工学領域の修士1年生が参加する英語ポスターセッションのプレゼンテーションコンペティションを実施しました。学生は大変だったと思いますがグローバル化する今日では大事な経験です。次年度も開催予定ですので、校友会の皆様もご都合がえれば、ご参加いただければ幸いです。



英語ポスター発表Presentation Competitionの様子

## ■機親会

会長 松村 慶一 (S49機械)

機親会は平成30年3月機械工学科(学部89名、修士博士25名)、機械システム工学科(学部94名、修士博士39名)のそれぞれの卒業生を迎えて15,978名で構成されています。

平成30年度春の叙勲において、大島章宏君(1974年(昭和49年)材料力学研 院卒)が「旭日大綬章」の栄を賜われました。機親会にとって、大学にとって大きな喜びでした。大島君の受章を祝して祝賀会・記念講演会(平成30年7月21日)を開催し、皆様と喜びを分かち合う機会となりました(詳細は本号5ページを参照ください)。

これまで機械系学科への支援として、①新入生フレッシュャーズキャンプ支援、②機械システム工学科卒業生と現役学生との交流の場であるMessage(機械システムシンポジウム)への支援、③学生課外活動Mi-Techレーシングへの支援、などで研究室、学科学生との支援協調に取り組んできましたが、これまで以上にその取組みを加速します。④本年度から、学生の学才向上、グローバル化への支援として、国際学会などでの論文発表に対する助成支援を始めます。これまで以上に卒業生皆様の支援拡大を期待します。

さらに、これらの取組みを機親会各位に広報し、卒業生の大学との距離を縮めてもらうこと、また相互親睦の拡大をねらって、⑤機親会ホームページ(<http://tcu-kishinkai.sakura.ne.jp/website/>)を開始しました。

各位に忌憚のないご意見を切にお願いいたします。



機親会ホームページ  
(トップページ)



フォーミュラー大会参加  
(Mi-Techチーム)

## ■原子力安全工学科

主任教授 河原林 順

原子力安全工学科は平成29年度から入学定員が増加し、平成30年度も51名の新生を迎えました。例年になく新生の多さで、フレッシュマンキャンプもバス2台体制がほぼ固定され、ますますにぎやかになっております。今年度は比較的近場の東海村の見学で、JAEAや日本原子力発電にお邪魔させていただきました。写真はフレッシュマンキャンプでのJAEA東海での見学の様子です。ヘルメットをかぶって神妙に解説に聞き入っています。

最近のイベントとしては、秋の世田谷等々力祭で閃源会のブースが後援会特別賞を受賞し表彰されました。学生の活動が評価され、今後の成長に期待が持てます。

卒業生の方々も活躍の毎日とは存じますが、世田谷等々力祭と同時にホームカミングデーも開かれますので、同窓会を兼ねて同期でお集まりいただき御来学いただくと、教員一同うれしく思います。なお、今年度から新しく原子力人材入試制度が始まり、原子力分野への貢献意欲のある学生を積極的に受け入れていくこととなりました。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきます。



## ■原子力友の会

羽倉 尚人 (H17エネルギー基礎)

学生主体の活動支援：卒業生との結び付きの一助に

■本会では、原子力安全工学科の学生組織「閃源会（せんげんかい）」と連携し、学生の活動支援、学生と卒業生の繋がりの強化を活動の柱の一つとしている。現役の学生・教職員との繋がりを深めることは本会の将来的な発展において重要である。今年度は学生有志が企画し9月に実施した福島への視察・研修旅行に対し予算的な面でサポートした。学生から提案された企画書に対し、助言するとともに学生の負担を軽減する支援を行った。本視察の結果は、11月の学園祭にて報告され、後援会特別賞を受賞した（写真）。今後も学生との連携を深める一つのきっかけとしてこうした支援事業を実施していきたいと考えている。

■2018年6月23日に世田谷キャンパスにて第7回定期総会・講演会を開催した。講演会では原子力安全工学科・竹澤宏樹先生に「核エネルギー直接発電技術のご紹介・原子力系学生の就職動向」と題してご講演いただいた。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



## ■電気電子工学科

主任教授 野平 博司

4月に多くの新生を迎え、例年通り新生、補助の上級生およびクラス担任などの教員が参加して1泊2日（鴨川ホテル三日月に宿泊）の参加フレッシュマンキャンプ（教務ガイダンス、スポーツ大会、グループ討議、飯盒炊爨などを行う）で新学期がスタートしました。新生の友達を作りと教官や上級生との面識をつくるのが狙いの行事です。集合写真を下に掲載します。（学科のホームページ<http://www.ee.tcu.ac.jp/> 参照）学科のニュースとしては、電気電子工学科のOBでもある星先生が加わりました。また、改組により平成31年度から現在の知識工学部、情報通信工学科の一部と一緒に、電気電子通信工学科になります。電気電子の分野に通信分野を融合させることで学科の魅力の向上を目指して改革を行っていきます。サイト（<http://www.ee.tcu.ac.jp/eece/index.html>）を参照ください。最後に、平成30年度の就職状況は、100%内定しました。電気電子通信工学科になっても100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。



([http://www.ee.tcu.ac.jp/wp/wp-content/themes/toshidai\\_denki/common/imgs/img-overview.jpg](http://www.ee.tcu.ac.jp/wp/wp-content/themes/toshidai_denki/common/imgs/img-overview.jpg))

## ■電友会

会長 石田 弥 (S45電気)

平成30年7月の電友会総会で役員会改正が行われ、私は再任頂きました。会の発展に微力を尽くさせていただきますのでよろしくお願い致します。

さて、電友会は昨年度の創立50周年を記念して電気系研究室の系譜の整理に取り組み、今年度おおむね完成しました。年代を経た会員同志の交流には、卒業時の研究室は重要な役割を果たします。しかし時代の変遷に伴って電気系統の研究内容も変化し、母校の研究室の名称が変わっています。

電気工学科は、私が卒業した昭和45年を起点としても、電気電子情報工学科となり、その後に研究室が学科移動し、現在の電気電子工学科となりました。そこで卒業当時の研究室と現存する研究室との関連性を明らかにするために研究室の系譜を整理しました。希望される方は機器研の鈴木先生（電友会事務局）にお問い合わせ下さい。（平成31年度からは、情報通信工学科の一部研究室が当学科に移動され電気電子通信工学科となります。）

電友会の主な活動

- 1、総会（3年に一回、次回は2021年7月予定）
- 2、幹事会（3年に2回、次回は2019年4月予定）
- 3、常任幹事会の開催（年度内に4回程度）
- 4、会員支援（研究室、年度別などの同窓会）
- 5、会員交流（ホームカミングデーに合わせ開催）
- 6、学生支援（電友会賞、鳥山杯、技術士・電検三種の受験等）
- 7、学生支援（学部一年生のフレッシュマンセミナー支援）

平成30年度の総会では光井先生の講義の他、院生による研究室の研究発表を実施し6研究室の参加がありました。高齢者が多い参加者一同は熱心に受講しましたが、進んだ内容に理解するのに苦労する場面もありました。

## ■医用工学科

主任教授 森 晃

これまで、医工学科は、4つの研究室、臨床計測器械工学(桐生、森、和多田)、生体計測工学(島谷、京相)、知覚システム工学(平田、小林)、生体認知工学(仁木、桃沢)であったが、仁木教授が退職され新体制となる予定です。

従来通り4つの研究部門が互いに連携しながらヒトの健康に役立つ教育と研究を進めていく予定です。医工学科独自の教育、研究プログラムが、医歯薬系総合大学である昭和大学と連携して行われており、学生実習の中心が旗の台の昭和大学病院で行われます。昭和大学病院の実習では、実際の医療現場で使用されている内視鏡装置などを手に取り操作することも可能で、大型装置の実物を体感することもできます。MRIやX線CT、核医学検査や脳波検査などは専用の部屋を必要とし、体内の情報を取得することがいかに難しく、大掛かりな装置を必要とするかを痛感させられます。特に臨床工学士を志望する学生には病院の手術室で人工心肺などの見学も可能です。他にも、医療機器開発の歴史についての話では、最新の装置は患者さんを安心させるために、丸みを帯びたデザインや淡い色調を用いていることなども教えてもらい今後の医療機器開発のヒントなども得たりします。このような実物教育が評判になっているのか、志願者数増加になっています。

このような装置の現状や配慮についての学習は、装置の原理や使用法を学ぶ座学では難しく、昭和大学病院で実際の現場での体験をいかして今後の教育改善と研究に生かしたいと考えております。生体医工学科は将来の医療機器の開発に関する研究者を育てる学科ではなく、たとえば、自宅にいて椅子に腰かけながらヒトの心電図が計測でき、ヒトの健康状態を自宅でくつろぎながら判定できる建築設計などの関連しないような領域に関連するのが生体医工学科であると考えております。このように、本学科では実物的教育研究により多方面に応用できる人材育成に取り組んでおります。



内視鏡実習



レントゲン実習

## ■エネルギー化学科

主任教授 高橋 政志

エネルギー化学科では平成30年3月に93名の卒業生を送り出し、4月には76名の新入生を迎えました。入学直後に行われたフレッシューズキャンプでは、千葉県木更津市のホテルに宿泊し、1日目は日清オイリオと新日鉄君津製鉄所の見学を、2日目はマザー牧場で焼きそばづくりを行いました。また、初日の夕食後には例年どおり化源会上級生による懇親会が行われました。これらのプログラムによって新入生は早く学科に馴染むことができ、大学生活を順調にスタートさせています。

今年度、エネルギー化学科は4月竣工の新6号館4階に移転しました。これまで念願だった学科研究室の集結が実現したことで相互の協力と連携が促進され、学科の総合力向上につながると期待しています。また、3階には自然科学科と共用の学生実験室と分析室が設置され、これまでの不便が解消されました。

卒業生の皆さまにはお時間のある時に大学にお立ち寄りいただき、新しくなった研究室をご覧いただければ幸いです。今後とも学科の活動に対してご理解をいただき、様々な視点からご意見を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



フレッシューズキャンプ(焼きそばづくり)



新6号館4階研究室



新6号館外観

## ■医工会

会長 小宮山 和弘 (H23生体医)

### 【2018年度報告】

医工会の活動再開を図り、10月11日(木)に東京都市大学 臨床工学研究室にて打合せを実施いたしました。当日は事務局の和多田教授を交え、会長、副会長をはじめ医工会の会員による闊達な意見交換がなされました。当面の課題は組織再編と定期的なイベントの確立となりそうです。

上記の先駆けとして11月18日(日)には医用工学科の卒業生とその家族を対象にしたファミリーイベントを開催いたしました。準備期間は1ヶ月と短かったにも関わらず当日は15名の参加者がいました。今回の企画は好評を得られましたので引き続き開催を予定しております。

イベント終了後には有志による打合せが行われ今後の改善点などについて話し合われました。この度、実際に企画運営したことによって連絡先の管理や企画の周知方法など課題が明確になりました。医工会設立後6年が経ち会員数が増えて参りましたので、より一層、管理運営に力を入れていく所存です。

### 【2019年度予定】

開催時期等は未定ですが医工学の再始動に向けて総会を開催いたします。

年始に上記のための準備会を企画しております。



## 維持会費について

- 趣旨：校友会活動の発展のために、ご支援ご協力をお願いしています。(税制上の優遇はありません。)
- 金額：1口2,000円とし、何口でも結構です。任意。
- 期日：いつでも受け付けています。随時。
- 回数：何回でも受け付けています。任意。
- 払込先名義：東京都市大学校友会
- 払込口座番号：00190-3-451231
- 払込取扱票：「都市」に同封の用紙をお使いください。郵便局にもあります。
- 払込取扱票通信欄：「おなまえ」、「おところ」の他に、「卒業年」、「卒業学科」、できれば「会員番号(宛名ラベルに記載)」を記入して下さい。住所などの変更はその旨記入して下さい。
- 「都市大校友オンライン」又は事務局でも変更手続きができます。
- 銀行からも振り込むことができますが、振込人名に「会員番号」又は「卒業年」、「卒業学科」を付記して下さい。無いと振込人を特定できません。
- 銀行からの振込先：ゆうちょ銀行  
〇一九(ゼロイチキュウ)店、当座  
口座番号0451231、東京都市大学校友会

## ■建築学科

主任教授 勝又 英明 (S55建築)

建築学科は平成30年11月に時点で、学部生478名(内女性157名)、大学院生修士課程59名(内女性11名)、博士後期課程7名(内女性1名)が在籍しており、31%が女性です。

建築学科の教職員の構成(平成30年度)は、専任教員14名、専任教員(教育講師)1名、教育職員(技術員)2名、事務職員1名の体制です。2018年4月に教育講師(環境・設備系)として藤井研一先生が着任しました。

就職状況ですが、オリンピック景気のため好調です。ただオリンピック後、就職状況がどのように変わるのか心配です。ただ2025大阪・関西万博が決定少し安心しているところです。ただ、残念なことに就職状況が良いため、大学院進学者がやや頭打ちです。社会人の方は減免制度(授業料は、修士課程の場合50%減免、博士課程の場合90%減免です。)がありますので是非大学院への進学をご検討ください。

建築学科の活動につきましては、東京都市大学Website内建築学科HPをご覧ください。建築学科公式FBページもあります。建築学科公式FBは随時更新しておりますので、建築学科の今の姿がご覧いただけます。また、年に2回発行の如学会Newsの中でも毎月「建築学科の近況」により建築学科の活動を報告しております。是非ご覧ください。

現在、学部再編やキャンパス再開、国際化への対応、国際学生寮の新設、研究の充実など都市大全体の改革が進行中です。建築学科も(現状では詳しく述べることはできませんが)さらなる発展のための改革が計画されています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

## ■如学会

会長 山岡 嘉彌 (S46 建築)

今年度も校友会並びに如学会会員各位には大変お世話になりました。以下画像で、この1年の主要な如学会の活動記録をご紹介します。各イベントは、如学会HP、会誌「如学会NEWS」(年2回発行)、如学会メールマガジン(月平均2回発信)にてお知らせしております。次年度も校友会の皆様と交流を深めるべく、各種の行事を企画しており、是非多くの皆様のご参加をお願いいたします。今年の如学会「定期総会・講演会・懇親会」は、2019年6月1日(土)15:30より渋谷エクセルホテル東急にて開催いたします。(15:30-16:30 総会、16:45-17:45 講演会、18:00-20:00 懇親会)如学会会員諸氏はお誘い合わせの上、奮って参加下さい。



如学会「ドバイ・アブダビ都市建築ツアー」(2018.10.18-10.22)



如学会・進路ガイダンス(2018.11.21)



如学会OB・OGによる夏季特別講義(2018.8.5-8.9)



如学会「建築100人展2018 大学展」(2018.11.3-11.4)



如学会「建築100人展2018 浅草展」講演会(2018.12.1)



建築100人展/貸切クルージングパーティ(2018.12.1)  
高橋遠・五島育英会理事長 挨拶

## ■都市工学科

主任教授 丸山 収 (S58土木)

平成29年度末に、災害軽減の吉川弘道先生が定年退職され、名誉教授とされました。

平成30年度9月には、災害軽減に関屋英彦先生が赴任されました。教育・研究および学科運営に活躍されることを期待しております。

都市工学科の入試状況、卒業生の就職状況に関しましては、市民生活、経済活動の根幹である社会基盤施設の重要性に対する認識が高まっていることもあり、好調に推移しています。特に、学生の就職活動に対しては、卒業生の皆様にご支援をいただいております。

学科としては、第一に、本学唯一のJABEE認定プログラムとして、教育の質保証に関する改善活動を継続して実施しております。

大学では、国際化に向けた多くの施策を実行しておりますが、都市工学科でもJTのさくらサイエンスプランに採択事業として、タマサート大学(タイ)、デラサル大学(フィリピン)および台湾中央大学からの学生を受け入れ、共同で研究活動を行いました。

また、平成30年3月には、社会人対象の「社会基盤マネジメント」から、修士課程学生の第一期生が卒業しました。秋入学も実施しており、現在も多くの社会人学生が学んでおります。学科の動向は、<http://www.civil.tcu.ac.jp/>をご覧ください。



留学生への修了証書授与式

## ■緑土会

会長 皆川 勝 (S54土木、東京都市大学副学長)



4月1日より前草柳俊二会長(S42)から会長を引き継ぎました。前会長の下では、小林哲男前副会長(S47)のリーダーシップの下で様々な改革が行われました。部会制度が確立され、財務・広報校友会・組織管理・会報HP編集・学生支援の5部会により活動が活性化されました。

現在、平本公男(S53)・黒沼良彰(S53)・高橋禎夫(S57)の三副会長、総務部長の丸山収教授(S58)、財務部会長の伊藤和也准教授(H10)を中心に、これまで構築されたシステムを活かしつつ、これからの活動のあり方を検討していただいております。上記の方々を含めてすべての役員が現役のビジネスマン・教員であることから、本務に支障が出ないように配慮しつつ、大学および学生との連携を進めていかなければなりません。

ご承知の通り、緑土会は、大学創設時に学生の会として発足して、90年を迎えようとしています。大学では、“Nothing about us without us”ということで、教職員と学生の協働を進めつつあります。さらに、海外インターンシップや社会人大学院の充実も図っています。いずれも社会と大学・学生との橋渡しとしての卒業生への期待は大変大きいものがあります。緑土会にあっても、現役学生の会である新緑会との連携をこれまで以上に進めて、社会に貢献してゆきたいと考えています。以下の会報誌「りよくど」をぜひ閲覧いただくとともに、本会活動にこれまで以上に関わっていただきたいと思っております。

<http://www.tcu-alumni.jp/branch/htdocs/ryokudokai/ryokudo/>

## ■情報科学科

主任教授 横山 孝典

情報科学科の近況を報告させていただきます。まず学生の動向ですが、2018年3月に102名の卒業を送り出しました。そして4月には入学生132名を迎えました。11月1日現在の在籍者数は1年生132名、2年生132名、3年生99名、4年生89名で、合計452名となります。次に教職員についてですが、兪明連先生が教授に昇格されました。

現在本学は国際化に力を入れており、本学科の学生も東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）に参加しています。2019年度には、TAPの他、英語による専門科目の講義を含む国際コースを新設予定です。また、本学科は大連交通大学と交換留学生の協定を結んでおり、毎年5名の留学生が本学科の研究室に1年間滞在し、学修および研究に取り組んでおります。本学科からも大連交通大学に長期あるいは短期の留学をしています。

就職状況はここ数年好調ですが、これも卒業生の皆様のご活躍のおかげと感謝しております。ただ、経団連が就活ルールの廃止を決定したため、新たな対応が必要です。社会の要請に応える技術者の育成のため、教育・研究のさらなる向上を目指し努力していく所存でございますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



フレッシュャーズキャンプにおけるアクティビティの様子

## ■情報通信工学科

主任教授 柴田 随道

4月、満開の桜のなか、新1年生69名と高専卒編入生1名を迎え、1年生は恒例のフレッシュャーズキャンプで新たな学友との交友を深めました。また現在、4年生は3割弱が大学院へ進学を決め、就職組も通信分野の求人が毎年堅調で安定した高い就職内定率を実現しています。10月末時点で1年生から4年生まで、総勢279名（男254、女25）の学部学生が世田谷キャンパスの学生生活を謳歌しています。教職員は、今年4月に神野健哉教授、平野拓一准教授の2名が新たに本学科に着任され、技士も含めて10名の陣容で研究、教育の指導に当たっています。一方、2019年度からは、本学の目玉施策となる学科改組において、本学科の通信分野が工学部の電気電子分野と合同し、新たに電気電子通信工学科として領域と規模の拡大を図り、新1年生を迎えます。また、コンピュータ通信分野は知識工学部知能情報工学科として新展開にチャレンジしつつ、新1年生を迎えることが決まっています。通信分野の人材創出への新たな展開に向けた年となるように、引き続き、諸先輩方のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



フレッシュャーズキャンプ（木更津竜宮城）での履修相談会

## 校友会の海外支部発足に向けて

ご存知の通り多くの校友会会員が海外で働いたり、住居を海外に移したりしています。現在海外で活動している校友会会員は約300名にもなります。一方、東京都市大学は、国際化強力（グローバル人材育成）を進めています。これから卒業する後輩たちは、ますます海外で活躍するものと考えられます。校友会も世界的なネットワークが求められています。

10年後の大学100周年に向けて海外支部づくりを開始しています。海外支部創設のため、海外在住、海外事業で活躍されている方々など、ご関心のある皆さんのさらなるご援助を頂きたいと思っております。

海外支部の役割は、会員相互の親睦と交流はもとより、海外インターンシップの派遣支援援助です。現在、拠点開設にご協力くださった方々の国は、アメリカと台湾です。さらに、現在検討を進めているのはタイ、ベトナム、ミャンマー、フィリピンです。多くの皆様のご援助、ご協力をお願いいたします。関連する、ご協力支援、情報提供、問い合わせを校友会事務局（koyukai@tcu.ac.jp）をお願いいたします。

担当：副会長・支部委員長 松村慶一

海外インターンシップ特別部会長 鈴木威一

## ■通友会

会長 鈴木 威一（S41通信）

今年度の第1回通友会主催講演会は総会終了後の6月16日に講師は通友会会長の鈴木威一で行われた。2号館の大きな会場には学生を中心に教職員卒業生他学科からも多くの方が参加して下さり、盛会であった。そして2回目は9月29日通友会会員である日本ヒューレットパカード社専務執行役員の九嶋氏がHP社の世界戦略についてスケールの大きな素晴らしいご講演をして下さった。

夏休み後半には学生団体である通工会の役員が10人近くも参加して通友会幹事との懇親会を実施した。また来年度から情報通信学科は電気電子通信学科として再編されることから、大学院の佐和橋主任、学部の柴田主任教授と通友会会長副会長の情報交換会を例年以上に頻繁に行っている。3回目を迎える研修旅行を今年も実施した。最先端研究所バス旅行研修会である。NTTご出身の柴田先生の御援助を頂き9月10日（月）はNTT横須賀通信研究所と川崎の富士通研究所を訪問させて頂いた。NTTでは次世代5Gの実際に触れたり、バーチャルな3次元画像伝送のデモを見たりした、富士通研究所でも富士通出身の先輩のおかげで、普通では見ることが出来ない最先端の研究成果のデモを見せて頂いた。バスを1日貸切 通友会通工会の共同主催で学生は無料で参加できた、とても有益なバス研修会であった。さらには学生の進路支援の説明会、海外インターンシップの特別説明会など卒業生・学生の為の活動を今年も活発に行っている。卒業式には通友会賞、国際賞、エクセレント賞の授与を行い前向きな学生のモチベーション向上のお手伝いしている。



## ■経営システム工学科

主任教授 森 博彦

経営システム工学科は平成31年度より知能情報工学科に名称を変更することになりました。これまで経営システム工学科はイノベーションを起こすことのできる製品やサービスを社会に送り出すことのできるグローバルな技術者の養成を目標としてきました。現在の社会は第4次産業革命とも呼ばれています。様々なモノがIoTで結びつき、瞬間瞬間の消費者のニーズをビッグデータ解析で把握し、発注から生産・配送までAI等がダイナミックに行なっていくようになってきます。そのような時代では、AIや人間の知能、クラウド知能や組織の持つ知能などを有効に活用する能力こそ、我々の教育目標としてきたマネジメント能力に欠かせないと判断しました。決して経営工学を廃止したわけではなく、東京都市大学から新たな経営システム工学を生み出すために、新たな一歩を歩む決断をしたのです。今回の改組に伴い、岡田准教授と大久保准教授は環境学部に移籍し、新たに電子通信工学科の塩本教授と神野教授に来ていただきます。また、30年4月に横山教授が、更に31年4月には細野准教授が退職されます。メンバーも大幅に変わっていますが、これまでどおりのご支援をよろしくお願いいたします。



## ■自然科学科

主任教授 飯島 正徳

学科の近況としまして、まずご報告しなければならないことは、自然科学科の悲願であった研究室が新6号館に誕生し、今年度9月には数学系以外の研究室は、居室も含めてすべて引っ越しが完了したことです。卒業生の方にはなじみの深い6号館が取り壊されることは誠に名残惜しいことではありますが、後期からは新棟での研究・教育に励んでおります。大学へお越しの際には、こちらの新棟へお立ち寄り下さい。昨年度の定員増、今年度の新棟への引越し等、開設から10年の節目を迎える今年度はいろいろな意味で新しい学科としての再スタートの年になりました。

今年度は10期生60名（男子51名、女子9名）が入学し、33名（男20名、女13名）が社会に巣立って行きました。専任教員は吉野先生、鈴木先生が昨年度3月に定年退職を迎えられ、今年度4月に数学の服部新准教授、化石の中島保寿准教授が着任しました。現在は、橋本教授、吉田教授、福田教授、萩谷准教授、堀越准教授、中井准教授、服部准教授、中島准教授、舩原講師、門多講師、高木講師、そして飯島の12名体制となっています。吉野先生、鈴木先生には教育講師として教育を継続して頂いています。

就職活動では本学科の卒業生も若干ではありますが、リクルーターとして活動している姿を見掛けるようにはなりました。ですが、まだまだ本学OBの方に大部分お世話になっているのが現状です。毎年のごとくですが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。自然科学科の卒業生も、皆様の一員として、本学及び社会に立派に貢献する日が来ることを願っております。



自然科学科第3研究室

## ■経友会

会長 海老沼 利光 (S49経営)

1) 学生支援活動を推進しています。学生学科研究会：経工会の支援を開始し、3年が経過しました。経営工学卒業生の実践体験談を中心に学生指導を行っています。就活においては、多数の優良企業より良い結果を得ることができました。この活動は2019年度も継続します。卒業生の皆さんの活動支援をお願いします。

2) 2019年3月末に細野泰彦准教授 (S51年経営卒) が退任となります。3月9日に退任記念講演及び記念パーティを行いました。多数の方々の参加があり盛大な退官記念事業となりました。細野准教授の長い間のご指導に感謝申し上げます。

3) 校友会地方支部は全国に42支部あり、その内の7支部の支部長を経営工学科出身者が務めています。経友会ニュース11号 (3月9日発行予定) に「支部長誌上紹介」を掲載しました。どうぞ、ご覧ください。

4) 情報通信技術、人口知能や大規模データなどの先進的技術分野の進化に対応し、これらの先進技術者を育成することを目指した「知能情報工学科」に改組するとの発表がありました。この背景には、戦略・背景・目的があることを理解しつつ、「新しい社会を創造する先進的技術者を育成する学科」に魅力を感じる高校生達が増大することに大いに期待したいと思えます。

一方、卒業生を受け入れる企業側は、知能情報工学科は、「どのような技術領域を身に着けた技術者なのか」との着目をします。学生は、この期待に的確に答えることが求められます。

経営工学：IEは、企業では中心的役割を担い続けていますが、学科の名称が2019年入学生より「知能情報工学科」に変わります。「経友会」の名称について、経友会役員で審議し、総意として「変えない」と決定しました。

経友会は、「知能情報工学科」の発展に大いに協力・支援します。

## ■さきがけ

会計 高橋 伸行 (H25自然科学)

2015年より発行している会報「先駆け」は私と村田柚葉さん (会報編集員会) を筆頭に制作しております。さきがけ会員みなさまのご協力により、会報「先駆け」は無事、第7号まで発行することができました。いつも愛読をありがとうございます。2018年の事業は、以下の通りでした。①2017年度さきがけ賞授与 (2名)、②フレッシャーズキャンプTA支援 (3名)、③2018年さきがけ総会開催、④会報「先駆け」第6・7号発行、⑤ホームページの随時更新、⑥キャリアデザインの授業での講演 (3名) など。

2017年に第1回ホームカミングデーを実施し、現在、藤田彩花委員長 (ホームカミングデー推進委員会) を筆頭に第2回ホームカミングデーの実施を計画しております。さきがけホームページに計画を随時更新しております。是非ご確認ください。



## ■環境創生学科

主任教授 室田 昌子

現在、SDGsが世界各国の目標の1つとしてとりあげられ、また、日本でも政府や各自治体、企業、市民団体などで政策や方針、活動として取り組まれている。環境創生学科は、生態環境分野と都市環境分野の2分野で環境共生や自然共生、環境負荷軽減を図る地域や都市の環境づくりをめざして創設された学科であり、持続可能な環境づくりをめざしている。SDGsでいえば、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標15「陸の豊かさを守ろう」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」など多くの目標に関わっている。

これらの目標達成に貢献できる人材育成をめざしており、専門家を輩出するために、技術士一次試験の合格者を少しでも増やしたいと考え柏門技術士会の方々には今年度も引き続き多大なご支援をいただいている。

学生には「技術士」という資格が浸透してきており、今年度はおかげさまで環境部門で在学中の合格者数が全国第一位となった。大変うれしいことであり、柏門技術士会の方々にはこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。技術士一次試験は学生にとって大変良い目標であり、また学科としても大変ありがたい目標と考えている。学生が大学時代に勉強をする習慣が付き、また合格すると自信が付き、将来の目標も明確になる。また、残念ながら在学中に合格できなかった学生も、卒業後に再度挑戦し、合格したという声も聴くので、卒業後にも継続して自分の一貫した目標を持つことができる。

少しでも多くの学生にチャレンジしてもらい、そのうえで専門を生かして社会で活躍してもらいたいと思っている。

## ■社会メディア学科

主任教授 小池 星多

4月に95名の新入生、1名の編入生が入学しました。新たに永盛祐介准教授が着任しました。4月6日（金）～7日（土）においてフレッシュャーズキャンプに参加しました。これは横浜キャンパスの全2学部4学科で新入生、クラス担任の教員、職員が1泊2日で宿泊して、特に新入生同士で交流して入学後の学生生活をスムーズに送れるようにしたイベント企画です。今年は長野県の白樺リゾート「池の平ホテル」に行きました。（写真）6月9日（金）、10日（土）、8月3日（金）ではオープンキャンパスが開催され、社会メディア学科も研究室展示を行いました。8月7日（火）に第17回 科学体験教室が世田谷キャンパスで開催され、社会メディア学科からは中村雅子研究室（電子回路ペン体験）、小池星多研究室（ロボットとドローンの体験）が展示を行いました。横浜キャンパス図書館が改装され1階に学生が自由に勉強できるラーニングコモンズが誕生しました。このラーニングコモンズにおいて開催されたミニセミナーに、社会メディア学科の3人の教員が講演しました。10月10日（水）に高田昌幸教授、11月7日（水）に李洪千准教授、12月7日（金）に永盛祐介准教授が担当しました。



フレッシュャーズキャンプの様子

## ■環境マネジメント学科

主任教授 郭 偉宏

2018年は変化の大きい一年でした。専任教員は小野直樹教授が定年退職し、新たに古川柳蔵教授、木村眞実准教授を迎え入れました。教授6名、准教授3名、講師1名の体制で運営しています。また、2019年に学科名称は「環境経営システム学科」に変更します。これに伴い、知識工学部経営システム工学科から2名の教員が本学科に加わることになり、「経営」の色をより鮮明に打ち出す。そのため、入試制度（校友会推薦）、カリキュラム（3単位、PBL）、講義スタイル（座学からアクティブラーニング）、広報（ホームページ）など大幅に改善します。狙いは昨年同様「環境を武器にした攻めの経営」のできる人材の育成です。文系・理系問わず、環境に興味のある人、経営に興味のある人、問題発見と問題解決の技能を身につけたい人がぜひ来て欲しい。校友会のみならず、よろしく願います。



今年の1年生（フレッシュャーズキャンプにて）

## ■情報システム学科

主任教授 梅原 英一

昨年9月に市野順子教授が着任されました。また今年3月に長年にわたり本学科の発展に貢献して頂いた諏訪敬祐先生がご退任されました。これまでのご指導に深く感謝致します。

3月に2期生92名が卒業し社会に巣立ちました。今年度も就職率100%で好調でした。業種で見るとIT企業に77.5%、職種では情報処理技術者で83.1%でした。彼らの社会での今後の活躍に大いに期待したいと思います。

情報システム学科学生会が各種イベントに参加するという活動を活発に行いました。9月には「カードでカーロボットを動かそう！ーロボットの動きをプログラミングしてみよう！」という企画で小学生ができるプログラミング教室を、二子玉川ライズガリアの夢祭行いました。当日は幼稚園生から大人の方まで50名ほどのお客様に会場いただき大盛況でした。学科活性化に貢献する彼らの活動に期待しています。



夢祭（二子玉川）

2019年、東京都市大学は創立90周年を迎えます。



90周年ロゴマーク

### ■ 楷の木会（横浜キャンパス同窓会）

清田 華代（H17環境情報）

2018年6月9日（土）、横浜祭初日、平成30年度 Homecoming Dayでは、環境学部 環境創生学科 宿谷昌則教授による特別講義「建築環境学 外論—エクセルギー研究とその教育から見えてきたこと」、卒業生による講演では、緒方愛さん（H13環境）（沼田研究室／㈱セブン&アイHLDGS.）、新井進太さん（H17環境）（吉崎研究室／㈱スターフライヤー）、井口琢斗さん（H20情メ）（後藤研究室／荒川区役所）の3名に講演して頂きました。

第二部の懇親会では、合計91名にご参加頂き、多くの在校生・卒業生・学校関係者のみなさまが集いました。託児所とキッズスペースも好評で、お子様連れで卒業生も多く参加頂きました。次回もみなさまのご参加をお待ちしております。



左から宿谷先生、緒方さん、新井さん、井口さん



### ■ 児童学科

人間科学部 学部長 井戸ゆかり

児童学科が設立されてから10年目を迎え、学内に併設している子育て支援センター「ぴっぴ」の利用者数も述べ30万人を超えました。学生の子育て支援の良き演習の場となっているとともに、地域貢献にもつながっています。幼児期に家族に連れられて「ぴっぴ」に遊びに来ていた利用者さんが高校生に成長し、「ぴっぴ」での楽しい思い出を胸に本学科を志願したいという生徒さんもいました。

昨年度から3回シリーズで開催されている人間科学部児童学科公開講座は、今年度も夢キャンパスにおいて開催され、「第1回子どもと楽しむ絵本の世界」「第2回親子で遊ぼう！子どもを育む遊びの世界」「第3回コネコネ隊と粘土で遊ぼう」多くの参加者がありました。参加者の方から教員のわかりやすい説明や学生のやさしく適切な対応が高く評価されました。

また、学生会などが中心として取り組んでいる学生主体の夢キャンパスでの催しも毎回好評で、近隣の多くの親子さんが参加し、学生の励みにもなっています。

卒業生も後輩の活動を気にかけて、よく大学を訪れてくれています。今後も校友会の皆様へのあたたかい見守りとご支援を賜りますようお願い申し上げます。



〈夢キャンパスでの学生の活動〉

### ■ 新美砂会

副会長 川辺 加代子（S50国文）



#### ◇ 新美砂会総会開催

平成30年11月3日、等々力キャンパス学園祭の賑わいの中、3号館大会議室にて第4回総会を開催いたしました。席上、本年度の活動・会計報告と併せて、現在の母校の様子や校友会としての取り組みなどの報告をさせていただきました。

#### ◇ 等々力キャンパスホームカミングデー開催

総会終了後、学生食堂にて「等々力大交流会」と同時にホームカミングデーを開催、恩師を始めご来賓の皆様方や、若い等々力会のメンバーと共に、明るく和やかな時間を過ごすことが出来ました。今回も等々力会役員を中心に進行を担っていただき、例年以上に多かつた等々力会会員と一緒に大いに盛り上げていただきました。

また、今回の本会参加者の中には、在学中に同じ学生寮で過ごした先輩・後輩、サークル仲間、ミニクラス会などのグループ参加もあり、ともに過ごした青春時代の思い出話を花を咲かせていました。

いま大学では長期計画「アクションプラン2030」が着々と推進されています。その計画の中には、数年後には等々力キャンパスは世田谷キャンパスに統合される予定も含まれています。懐かしい学び舎を訪れる機会は残り少なくなってきておりますので、毎年開催されるホームカミングデーには皆様お誘いあわせの上、ぜひ多くの会員に参加していただきたいと願っております。

#### ◇ お願い

校友会並びに本会の様々な情報をお伝えし、会員の皆様に積極的に参加していただくために、ぜひ「都市大校友会オンライン」にご登録をお願いいたします。

## ■共通教育部

### 人文・社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は、人社教育部門・体育教育部門・教職教育の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追求し、さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう、日々努力を重ねています。

### ◎人文・社会科学教育部門

教授 新保 良明

教養科目は1990年代初頭の大学設置基準の緩和によりないがしろにされてきた過去を持ちますが、本学は教養科目の重要性を認識し、教養科目を大切にしてきました。これに追随するように、近年は企業から大学卒業にふさわしい教養が求められるようになってきました。この教養科目の中核を担うのが我々、人社部門であり、必然的に多様な科目を学生に提供するべく、実に多くの非常勤講師に授業の開講をお願いするというマネジメントを担い、その守備範囲は3キャンパスに及びます。責任を痛感しております。

さて、昨年度、今年度と人社部門は教員人事を経験しました。まず、昨年度末をもって、心理学担当の渡辺昭彦講師（学生相談室長）が定年退職され、この4月から山形大学より高橋国広教授を学生相談室長にお迎えしました。その一方で、心理学担当の千田茂博准教授が今年度末で定年退職を迎えられるため、後任人事が発生しています。

このように、人社部門は転換期を迎えております。

### ◎体育教育部門

教授 渡辺 一郎

体育部門では、今年度昇格した久保教授や椿原准教授がYC、SCハラスメント相談室長として日々学生の対応にてんてこ舞いです。一方渡辺教授が翌年に控えたワールドカップの次回開催国担当として相変わらず忙しい日々を送っています。また岩嶋准教授は体育会顧問として体育会学生の指導や科学体験教室責任者として頑張っております。山田講師は助教から昇格し、いよいよ地に足を付けて教育、研究にその手腕を発揮しつつあります。体育実技種目では楽しく運動量を増やすよう努力し、スポーツ健康論の講義では体力低下が人体に及ぼす影響や誰でもできる体力トレーニング法等を理論的にわかりやすく教授しています。クォーター制度や学部再編の影響で、長年の夢であった全学部必修になるものの1単位のみであり、選択科目としての体育実技を1人でも多くの学生に修得して頂けるよう、体育教室スタッフ全員で更なる努力をしていく所存です。

### ◎教職教育部門

教授 井上 健

本年度は文科省による教職課程の「再課程認定」で多忙な日々を過ごしました。そうしたなか、平成30年9月11日に中込幸二准教授がご病気のため急逝されました。

中込先生は、小中学校の教員・管理職として活躍され、平成29年4月に本学に着任されました。ご専門の「数学教育法」や新設される「総合的な学習の時間の理論と方法」を中心に、教職をめざす学生たちの指導に情熱を注がれていただけに残念でなりません。心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご遺志を継いでスタッフ一同さらに努力をしていく所存です。今後とも、教職課程へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 自然科学系

主任教授 山口 勝己

平成30年度は、14名の専任教員、2名の客員教授、71名の非常勤講師という体制で、主に工学部・知識工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。化学・生物・地学教育部門については、知識工学部自然科学科の教員が担当し、数学、物理部門についても自然科学科の教員と連携して教育を行っています。また、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

### ◎自然科学系／数学教育部門

新たに畑上教授をお迎えし、金川教授、畑上教授、井上准教授、古田准教授、森田教育講師の5名体制に加え、自然科学科の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。また、客員教授を野原勉・本学名誉教授に委嘱し、数学部門の教育と研究に関して助言をいただいています。

### ◎自然科学系／物理教育部門

長田教授、須藤准教授、西村准教授、中村講師、右近教育講師及び菅谷技師捕の6名に加えて、自然科学科の飯島教授、門多講師と連携して教育研究活動を行っています。また客員教授を岡部豊・首都大学東京名誉教授に委嘱し、物理部門全体の教育と研究に関して助言をいただいています。

### ◎自然科学系／情報教育部門

新たに荒木教育講師をお迎えし、山口教授、安井講師、荒木教育講師の3名体制で、主に工学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

## 外国語共通教育センター

主任教授 吉田 国子

外国語共通教育センターは、平成30年3月31日付で土肥一夫教授が定年退職された。その翌日の4月1日付で、マイケル・フォードリー氏を准教授として、また、細田雅也氏を講師としてお迎えした。

その後、8月31日付でスティーブン・クレイネス准教授が一身上の都合でご退職になり、後任として9月1日付で植野貴志子氏が教授として着任された。現在、教授4名、准教授4名、講師4名、教育講師2名、助手2名の16名が所属する組織になっている。

来年度からは、新カリキュラムである「都市大スタンダード2.0」がスタートする。英語の必修科目は1年次の4科目4単位のみになり、その他の4単位は英語選択科目を2科目、または、英語以外の外国語4単位を履修する。

グローバル時代を迎え、英語やその他の言語を学ぶ事で、学生さんの異文化接触の機会を増やし、多様な価値観を理解し、日本人という自らのアイデンティティを再確認する手伝いを新しいカリキュラムの中でできればと考えている。

## 等々力大交流会を開催いたしました！！

第10回 東京都市大学等々力祭 記念イベントといたしまして等々力大交流会（OB・OG、在学生、教職員がつながる場）等々力祭・ホームカミングデー同日開催で2018年11月3日（土）に行いました。

### イベントとして

記念講演会では初代都市生活学部長 平本一雄先生と初代人間科学部長 近藤雅雄先生にご講演いただき、交流サロンでは社会で活躍する先輩から在学生に就職や仕事のことなど、アドバイスをいただきました。また、卒業生同士でも交流を深めていただきました。

その後、ホームカミングデー併催で記念大交流会（懇親会）を行い、全体で136名の皆様にご参加をいただきました。当日の様子は、



# 校友会鳥取支部総会での講演報告

学生支援部部长 住田 暁弘

私は現在、学生支援部部长として、学生支援センター、キャリア支援センター、校友・後援会連携室の責任者、また教育開発室員を務めています。今も実家があり、高校まで過ごした鳥取県米子市で2018年7月7日に、開催された校友会鳥取支部総会に於いて、小中高校の先輩にあたる、藤谷支部長からご依頼頂いた、本学の近況についてお伝えする内容の講演を行いましたので以下報告させていただきます。

主な構成は、冒頭に東京都市大学は6学部、18学科、大学院2研究科を有する総合大学になっていることをお伝えした上で、「1.就職状況」、「2.入試概要」、「3.新たな推薦入試（卒業生の親族対象）」、「4.大学の改革」、「5.国際化」の流れで話を進めました。

「1.就職状況」では、首都圏の電車で掲示している窓上広告を示し、全国3位の就職率（大学ランキング2018AERA MOOK 進学 朝日新聞出版）の実績とその「就職に強い都市大」の理由についての説明を行いました。



「2.入試概要」では、2018年度入試結果の志願者数（全ての入試方式）で26,553人となり、前年比151%と大きく伸び、本学における過去最高となったこと。また、志願者数ランキング（一般入試・センター利用入試、河合塾調査）では、全国に私立大学が約770校ある中で32位にランキングされたことも紹介しました。これは下段で記す本学の大学改革や新たな取り組みが受験生に認知されて来ている効果も大きいと考えています。

「3.新たな推薦入試」では、公募推薦入試にグローバル志向型とレガティブ型を新たに設けたことを紹介しました。卒業生の皆様に特にお伝えしたいのは、レガティブ型推薦入試です。これは二親等内の親族（父母・祖父母・兄弟姉妹）が本学（武蔵工業大学・東横学園女子短期大学を含む）を卒業または修了した受験生が出願できるもので、一般推薦型に比べて評定平均値の条件が緩和されています。

「4.大学の改革」では、時代が求める人材を養成するため、今年度は大学院総合理工学研究科を、来年度は電気電子通信工学科、知能情報工学科、環境経営システム学科を新たにスタートさせることを紹介しました。また、本学は2029年には100周

年を迎えます。これに向けて「アクションプラン2030」を策定し、「国際都市東京で存在感を示す有数の大学」を旗印に、全学一丸となって様々な改革に取り組んでいる内容を紹介しました。まず、文部科学省から選ばれ、特に支給された補助金を活用して取り組んでいる二つの事業の紹介です。一つ目は最近社会から大学が求められている教育の質保証への取り組みで、これは本学が「大学教育改革再生加速プログラム」に採択され、オリジナルで先進的な日本型ディプロマ・サプリメントという、学生の学修成果を伝える仕組みを他大学に先駆けて開発していること。二つ目は『都市研究の都市大：魅力ある未来都市創生に貢献するエイジングシティ研究および実用化の国際フロンティア』という事業名で「私立大学研究ブランディング事業」に選定されたこと。この事業では総合研究所に未来都市研究機構を新たに設置しています。さらに文部科学省の関連では「私立大学等改革総合支援事業」で全国の私立大学の中で6大学しか選定されていない、4つのタイプに選定され、本学が他大学にも増して改革を進めていることを社会に示すことができていることも伝えました。

また、教育環境向上を目指し、大きくリニューアルしているキャパスについても紹介しました。特に現在、世田谷キャンパスでは新たな校舎の竣工や多数の校舎の建て替えが進んでいます。ホームカミングデーの機会などに是非ご覧いただければと思います。

「5.国際化」では、東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）が来年度5年目を迎え、学年毎に約500名の学生が1年生で100日間ネイティブスピーカーの講師による語学講座を日本で修めた上で、4か月間留学することになります。また今年から上級者向けにニュージーランドの名門カンタベリー大学への留学プログラム（TUCP）が始まりました。これらが進むと本学在籍学生の約3人に一人が留学経験者となることとなります。また、本学が独自に開拓した海外インターンシッププログラムも大きな特長となっています。今年は67名の学生を派遣しました。これは平均1か月間海外の企業などで実際の仕事を体験するものです。派遣前の事前研修、就業体験後の振り返りプログラムなどとセットとなり、かなりタフな経験になりますが、学生は見違える程大きく成長します。海外インターンシップの派遣先の6割は卒業生の紹介で開拓しており、今年度から校友会に海外インターンシップ特別部会も立ち上がりました。学生の成長にも多大な支援を頂いています。

もう一つの国際化となる外国人留学生の受け入れでは、世田谷キャンパスに隣接した場所に国際学生寮も来春完成予定です。また海外の大学との強い連携協定も進んでいます。

来年度は90周年、東京都市大学は古きを温めながらも、新しい取り組みに挑戦して参ります。引き続き、先輩の皆様からの力強いご支援をいただけますようよろしくお願いいたします。

## 都市大校友オンライン

昨年運用が開始された都市大校友オンラインは、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。しかし、残念ながら登録された方は、全会員の4%強に留まっています。より多くの方に登録していただき強靱な情報インフラを確立することが校友会の発展に結びつきます。まだ未登録の方は、昨年2月に校友会より皆様に右封筒で送付させていただいた『「都市大校友オンライン」の導入について』内にある「会員ID」と「初期パスワード」により登録をお願いします。なお、封筒を紛失された方は、校友会事務局（03-3703-3862 担当者 渡辺 小杉）までご連絡願います。また、既に登録された方で情報に変更のあった方は、確認・更新をお願いします。



## 東京都市大学校友会のあり方検討会（平成30年度第1回、第2回）

校友会の存在意義を認識したうえで、今後の活動を活性化するための建設的討議の場として、平成28年度から、実施しているもので、平成30年度は、第1回を9月15日（土）に実施しました。テーマは、「東京都市大学創立90周年に向けて」①校友会事業のあり方 ②校友会支部活動のあり方 ③校友会親睦行事のあり方

以上について、5グループに分かれて活発な討議が繰り広げられました。ここでの意見の具体化について会議体で更に検討していくことになります。

第2回を平成31年2月16日（土）に行います。



## 第6回 校友会親睦ゴルフ大会

11月1日（火）に今回初めての会場となる鶴舞カントリー倶楽部（千葉県市原市）において42名の参加により行いました。大学側は、生憎所用で参加できず、校友会員のみとなったが、前回は大幅に上回る参加者数となりました。また、今までの大会と異なった点として、女性会員の参加が2名あったこと、在学生の参加が5名（全員ゴルフ部所属）あり、親睦の和が広がった感があった。当日は、天候にも恵まれ、順調にプレイが進み、相互の懇親を深めることができました。



主なプレイ結果：【優勝】神田謙一氏（S49機械）【ベストグロ賞】<70歳以上>古澤忠正氏（S42建築）<61歳以上70歳未満>棚網通隆氏（S50経営）<60歳以下>佐藤智彦氏（H07建築）

## 校友会進路相談会

学生達がより適切な進路を選択できるよう卒業生から助言していただく催しとして、「校友会進路相談会」を11月7日（水）と11月28日（水）の両日に今年度も実施しました。参加企業（78社）及び参加学生（242名）とも前年度を上回りました。個別相談会は、前年度まで各教室に分散して行っていましたが、今年度は、学生食堂に集約して行い、効率よく進行しました。個別相談会の後、引き続き懇親会でも各企業の卒業生と在学生との間での熱の籠った懇談が繰り広げられました。

# 平成30年度定期総会

## 平成30年度定期総会

平成30年5月19日（土）に世田谷キャンパスにおいて平成30年度校友会定期総会を開催しました。当日は、13時から、総会を行い、「平成29年度事業報告」、「平成29年度収支決算報告及び監査報告」、「会則の改定」、「会長の承認」（原口兼正氏が新会長に就任）、「監査役の承認」を決議し、「平成30年度事業計画」、「平成30年度収支予算」、「細則の改定」、「今期の各委員長部会長及び委員」等の報告がありました。総会終了後、李洪千氏（東京都市大学メディア情報学部准教授）を講師として、「北朝鮮に対する国際圧力とほほえみ外交～朝鮮半島の現在と未来を読み解く」と題し、講演会を行い、北朝鮮を取り巻く状況についてお話をお伺いしました。

その後16時から懇親会の場合へ移動し、会員相互の交流を図りました。（出席者：総会135名、講演会148名、懇親会152名）

<功労者表彰>村上 啓二氏（S48土木 前宮城支部長）

千野慎一郎氏（S41建築 前静岡支部長）

<叙勲受章慶祝>大島 章宏氏（S46機械 国交大臣、経済産業大臣等歴任し国政に尽力された。）



## 平成29年度事業報告

### A. 組織運営

- ①総会、幹事会各1回、各委員会・部会等72回実施した。
- ②校友会のあり方検討会を会長諮問機関として実施した。（1回）
- ③「年間スケジュール表」を作成し、HPIに掲載した。
- ④維持会費の納入受付を開始した。

### B. 広報活動

- ①新システム「都市大校友オンライン」の運用を開始した。
- ②校友会HPの学科同窓会及び地方支部のページを整備した。
- ③会報「都市」第5号を発行し、卒業生、在学生、教職員へ配布した。

### C. 会員交流

#### 1. 校友会イベント

- ①総会で講演会（講師：早坂信哉教授）を実施した。また、大学と共催で講演会「軍艦島をはかる」を2回に亘って開催した。
- ②「ビール工場見学会」、「夢キャンパスセミナー」、「親睦ゴルフ大会」を実施した。

#### 2. 母校行事への参画

- ①各キャンパスでのホームカミングデーを大学と共催で実施した。
- ②学位授与式で「校友会賞」授与、式後大学と共催でガーデンパーティーを行った。

#### 3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画

- ①会館名称の改訂、耐震工事施工、会館使用の無料化を実施
- ②会館利用システムを構築し、運用を開始した。
- ③校友会役員6名が会館役員として会館運営に参画した。

### D. 支部活動支援

#### 1. 地方活動の支援・連携

- ①地方支部の活動に対する助成を行った。
- ②地方支部総会で在学生に対する就職活動支援を依頼した。
- ③「大学と保護者との連絡会」への出席を各支部へ依頼した。
- ④地方支部主催の市民参加型の講演会を大学と連携実施
- ⑤旧武蔵工業会と旧美砂会との統合を推進。地方支部総会（懇親会）への他支部からの参加を推奨し、支部間の交流を図った。

#### 2. 職場支部の支援

- ①各職場支部の総会に本部から参加、コミュニケーションを図った。
- ②第1回職場支部長会を実施し、活性化の意見交換を行った。
- ③職場支部長会、職場支部総会を通じて海外インターンシップ

受け入れ紹介を依頼した。

#### 3. 学科同窓会の活動支援

- ①学科同窓会活動に対する助成を行った。
4. クラブ同窓会が行う総会の宛名ラベルの作成支援を行った。

### E. 在学生・母校支援活動

#### 1. 在学生への支援

- ①進路相談会を12月に2回実施（企業69社、学生235名）
- ②海外インターンシップ派遣及び受け入れについて紹介・協力した。
- ③学科同窓会が学科研究会と交流する事業に対して助成した。

#### 2. 大学事業へ支援

- ①「夢に翼を奨学基金」へ助成 ②「語学力向上教育」へ助成
- ③「100円朝食」へ助成 ④「東京都市大学海外研修支援会」へ助成

## 平成30年度事業計画

### A. 組織運営

- ①総会・幹事会・常任幹事会・各委員会・付置部会の実施（継続）
- ②「若手中心のあり方検討会」を会長諮問機関として実施
- ③「年間実施スケジュール」の提示・情報共有（継続）
- ④「維持会費募集」（継続）

### B. 広報活動

- ①都市大校友オンライン」の活用
- ②講演会・セミナー・親睦行事等」の広報活動の推進
- ③校友会ホームページ」の活用・普及促進
- ④校友会会報「都市」第6号の発行、会報Web版化の試行及びアーカイブの充実

### C. 在学生・母校への支援

#### 1. 大学との連携事業

- ①定例連絡・協議会の開催
- ②連携事業の検討・立案・実施

#### 2. 在学生への支援活動

- ①就職支援：「進路相談会」の実施
- ②インターンシップ派遣先企業の紹介/提示
- ③「学科研究会」及び「学生団体連合会」との連携・支援

#### 3. 大学事業等への支援

- ①博士課程進学者への支援
- ②「海外研修支援会」への支援（継続）
- ③「緊急奨学金」の貸与（継続）
- ④その他の支援

### D. 学科同窓会及び支部活動支援・連携

#### 1. 学科同窓会の活動支援

#### 2. 体育会系、文化系クラブOB/OG会との連携

#### 3. 地方支部活動の支援・連携

- ①地方支部への活動助成金の給付
- ②就職活動支援依頼、受験生への母校紹介支援強化依頼
- ③大学と連携した地元企業及び保護者との関係強化
- ④地方支部とのネットワーク強化

#### 4. 職場支部活動の支援・連携

- ①職場支部との連携促進
- ②職場支部発足支援
- ③インターンシップ派遣先企業の紹介/提示

### E. 会員交流

#### 1. 校友会イベント

- ①講演会・懇親会・賀詞交歓会等の開催
- ②親睦行事・相互交流会・セミナー等の企画・開催
- ③「校友会功労者表彰」の継続実施

#### 2. 母校行事への参画と連携

- ①世田谷・横浜・等々力キャンパス「ホームカミングデー」の共催

- ②世田谷・横浜・等々力キャンパス開催「学園祭」参加支援

- ③学位授与式：「校友会賞」の授与、ガーデンパーティーの共催

#### 3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画

- ①「自由が丘クラブ」との協業による事業運営の実施
- ②「利用予約システム」の有効活用による利便性向上
- ③取締役及び監査役担当業務の遂行

平成29年度 収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日) (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減
<b>【事業活動収入】</b>			
会費収入	84,569,000	76,044,000	-8,515,000
・ 終身会費収入	71,865,000	68,150,000	-3,715,000
・ 定例会費収入	694,000	552,000	-142,000
定期総会懇親会会費収入	500,000	297,000	-203,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	108,000	-42,000
その他収入	44,000	147,000	103,000
・ 維持会費収入	12,000,000	7,342,000	-4,658,000
その他収入	1,800,000	1,840,727	40,727
・ 祝金	100,000	165,000	65,000
・ 配当費立替他	1,700,000	1,675,727	-24,273
前期末未収入金収入	0	0	0
期末未収入金(-)	0	0	0
預り金収入	0	0	0
貸付金返済収入	806,000	552,000	-254,000
事業活動収入計	87,165,000	78,436,727	-8,728,273
<b>【事業活動支出】</b>			
事業費支出	48,170,000	47,742,304	-427,696
・ 正会員向事業費支出	30,900,000	31,173,011	273,011
総会懇親会費支出	1,700,000	945,480	-754,520
会報関連費支出	6,200,000	6,459,860	259,860
学科同窓会・支部支援費支出	17,300,000	18,523,454	1,223,454
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	600,000	561,703	-38,297
親睦行事費支出	600,000	182,514	-417,486
会館優先使用費支出	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	13,970,000	13,181,154	-788,846
在学生支援費支出	11,500,000	10,835,358	-664,642
卒業支援費支出	2,470,000	2,345,796	-124,204
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	3,388,139	88,139
ホームカミングデー費支出	3,300,000	3,388,139	88,139
管理費支出	27,630,000	27,133,403	-496,597
人件費支出	11,430,000	11,410,079	-19,921
備品費支出	0	0	0
事務関連費支出	3,000,000	3,152,377	152,377
会議費支出	3,000,000	2,702,102	-297,898
ICTコミュニケーション運営費支出	4,700,000	7,132,843	2,432,843
雑費支出	2,500,000	2,736,002	236,002
予備費	3,000,000	0	-3,000,000
預り金支出	0	0	0
周年積立金支出	5,000,000	5,000,000	0
会館貸付金支出	0	0	0
基金(債券)支出	0	223,684	223,684
事業活動支出計	80,800,000	80,099,391	-700,609
当期収支差額	6,365,000	-1,662,664	-8,027,664
前期繰越収支差額	163,689,428	186,315,200	22,725,772
次期繰越収支差額	169,954,428	184,652,536	14,698,108

平成29年度 貸借対照表

平成30年3月31日 (単位:円)

科目	金額	科目	金額
<b>I 資産の部</b>		<b>II 負債の部</b>	
1 流動資産		流動負債	
現金預金	166,168,225	預り金	305,689
未収入金	18,790,000	流動負債合計	305,689
短期貸付金	564,000		
流動資産合計	185,522,225	<b>III 正味財産の部</b>	
2 固定資産		正味財産	383,035,972
投資有価証券	150,857,436	正味財産合計	383,035,972
関連会社株式	15,070,000		
長期貸付金	12,442,000		
貸倒引当金	△ 550,000		
周年積立金	20,000,000		
固定資産合計	197,819,436		
<b>資産合計</b>	<b>383,341,661</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>383,341,661</b>

平成30年度 収支予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日) (単位:円)

科目	平成30年度予算(A)	平成29年度決算(B)	増減(A-B)
<b>【事業活動収入】</b>			
会費収入	77,697,000	76,044,000	1,653,000
・ 終身会費収入	69,900,000	68,150,000	1,750,000
・ 定例会費収入	797,000	552,000	245,000
定期総会懇親会会費収入	500,000	297,000	203,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	108,000	42,000
その他収入	147,000	147,000	0
・ 維持会費収入	7,000,000	7,342,000	-342,000
その他収入	1,865,000	1,840,727	24,273
・ 祝金	165,000	165,000	0
・ 配当費立替他	1,700,000	1,675,727	24,273
前期末未収入金収入	0	0	0
期末未収入金(-)	0	0	0
預り金収入	200,000	0	200,000
貸付金返済収入	904,000	552,000	352,000
事業活動収入計	80,666,000	78,436,727	2,229,273
<b>【事業活動支出】</b>			
事業費支出	49,370,000	47,742,304	1,627,696
・ 正会員向事業費支出	31,500,000	31,173,011	326,989
総会懇親会費支出	1,000,000	945,480	54,520
会報関連費支出	5,700,000	6,459,860	-759,860
学科同窓会・支部支援費支出	19,300,000	18,523,454	776,546
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	600,000	561,703	38,297
親睦行事費支出	400,000	182,514	217,486
会館優先使用費支出	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	14,570,000	13,181,154	1,388,846
在学生支援費支出	12,300,000	10,835,358	1,464,642
卒業支援費支出	2,270,000	2,345,796	-75,796
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	3,388,139	-88,139
ホームカミングデー費支出	3,300,000	3,388,139	-88,139
管理費支出	24,110,000	27,133,403	-3,023,403
人件費支出	11,510,000	11,410,079	99,921
事務関連費支出	3,400,000	3,152,377	247,623
会議費支出	3,000,000	2,702,102	297,898
ICTコミュニケーション運営費支出	700,000	7,132,843	-6,432,843
雑費支出	2,500,000	2,736,002	-236,002
予備費	3,000,000	0	3,000,000
預り金支出	200,000	0	200,000
周年積立金支出	5,000,000	5,000,000	0
基金(債券)支出	0	223,684	-223,684
事業活動支出計	78,680,000	80,099,391	-1,419,391
当期収支差額	1,986,000	-1,662,664	3,648,664
前期繰越収支差額	184,652,536	186,315,200	-1,662,664
次期繰越収支差額	186,638,536	184,652,536	1,986,000

校友会役員一覧

(任期:平成30年から3年間)

\* 常任幹事

<会長>

原口 兼正	S49 通信
-------	--------

<副会長>

* 松村 慶一	S49 機械
* 川辺 加代子	S50 国文
* 吉村 正伸	H13 環境情報

<幹事> (学科同窓会選出)

大畠 章宏	S46 機械
神田 謙一	S49 機械
大谷 真一	S51 機械
松本 浩一	S59 機械
白木 尚人	H03 機械
望月 宏	S41 生産機械
* 中澤 真	S47 電気
小林 洋一	S48 電気
百目鬼 英雄	S52 電気
尾崎 正明	S54 電気
和多田 雅哉	S59 電気
鈴木 憲史	H17 電気
* 松浦 弦三郎	S51 土木
平本 公男	S53 土木
黒沼 良彰	S53 土木
高橋 禎夫	S57 土木
丸山 収	S58 土木
丹羽 譲治	S48 建築

酒井 孝博	S51 建築
露木 博規	S55 建築
藤井 研一	S57 建築
* 鈴木 浩	H16 建築
* 鈴木 威一	S41 通信
矢澤 猛	S47 通信
金子 核	H05 通信
伴城 暢一	H05 通信
矢崎 克実	S54 経営
* 金子 正樹	S55 経営
岡 誠	H08 経営
薩川 宣昭	H10 経営
渡邊 泰斗	H29 経営
高橋 明生	H16 電子情報
小林 匠	H23 生体医
本多 庸郎	S51 電気
佐藤 圭輔	H14 エネルギー基礎
加藤 広樹	H25 自然科学
* 上林 真也	H19 情報メディア
渡部 悠	H25 都市生活
早田 典子	S47 家政
田崎 博美	S49 国文
服部 圭子	S50 家政
加藤 祐子	S53 国文
* 宇野美智子	S54 英文

* 衣斐 喜美子	S55 家政
橋本 桃子	H03 家政

<幹事> (大学選出)

* 大上 浩	S56 機械
勝又 英明	S55 建築
* 鳥羽 幸太郎	-
植村 俊子	S52 家政
深山 芳寛	-

<幹事> (地域ブロック長)

山形 洋	S51 土木
須藤 賢一	S49 土木
* 金子 和裕	S53 経営
鹿熊 裕二	S56 経営
廣原 美照	S51 経営
山田 正一	S44 土木
横山 敬司	S54 経営

<幹事> (職場支部代表)

高木 勇一	S57 土木
山中 広司	S60 経営
天川 信一	S60 建築

<幹事> (学内支部)

丸山 収	同窓会選出幹事と兼務
------	------------

<監査役>

小林 菊恵	S33 家政
水谷 茂喜	(大学選出)

## 海外ネットワークづくりのためのお願い ～海外で活躍する卒業生を探しています～

東京都市大学では、2011年から学生を海外の企業に4週間から3か月間派遣し、インターンシップを実施しております。2017年度の実績は派遣先企業22社、派遣人数54名でしたが、これを2020年度70名、2030年度100名を目標にしています。

この目標達成には、派遣先の開拓が必要です。これまでの派遣先企業の60%は本学の卒業生ルートです。校友会は、協力体制を更に強化すべく、「海外インターンシップ特別部会」を新設致しました。

この特別部会において、派遣先の新規開拓に校友会として協力する為に効果的なのは、各国に校友会の海外支部を立ち上げる必要があるとの結論を得ました。卒業生の方々に下記のとおり、お願いすることと致しました。該当国の支部立ち上げのキッカケ情報として積み上げ、ネットワークを作り、協力いただける方々で役割分担していただく予定です。なお、情報提供いただいたデータは、本件以外に利用致しません。ご協力ご支援のほど願ひ致します。

○東京都市大学、武蔵工業大学、東横女子短期大学の卒業生で、現在海外で就業、居住されている方について、ご自身または、ご存じの方の氏名、卒業年・学科、勤務先、メールアドレス、住所等お分かりになる範囲でご連絡ください。

○現在は帰国していても、過去に上記1の状況で、現地の事情に詳しい方もその情報をご連絡ください。

なお、ご連絡は、以下内容を①下記校友会メールアドレス、または②校友会ホームページの「海外で活躍する卒業生を探しています」フォルダーをお願いいたします。

### 【ご連絡いただく内容】

- 氏名    卒業年・学科    勤務先    メールアドレス    住所  
ご回答者： 氏名 連絡先（メールアドレス、住所、電話番号）

以上

【連絡先】東京都市大学 校友会事務局

mail: koyukai@tcu.ac.jp    Tel:03-3703-3862    Fax:03-3703-4595

\*\*\*\*\*

海外インターンシップの状況は、以下でご覧頂けます。

<https://www.tcu.ac.jp/interchange/internship/>

東京都市大学ホームページ→国際交流→海外インターンシップからもご覧頂けます。

\*\*\*\*\*

## 追悼 今井章久前会報編集部会部会長



藤井 研一

校友会発足時から広報委員会委員長ならびに会報編集部会部会長を務められた今井章久先生は、2018年8月25日に急逝されました。

先生は、武蔵工業大学をご卒業、早稲田大学大学院で工学博士号を取得の後、長年、武蔵工業大学に奉職され、音響工学の研究・教育に携われました。そして、武蔵工業会時代には会報「武蔵」の編集にあたられ、2013年校友会発足と同時に会報編集部会部会長に就任されました。以来、会報「都市」の歴代編集長をはじめ部会関係者のご指導を続けてくださいました。

今年度の会報の編集作業についても、例年通り精力的に打ち合わせを重ねていらっしゃいました。特に、今年度は制作会社・印刷会社の選定にあたって、コストと円滑な作業のバランスを配慮した新たな取り組みをご提案いただき、先生の御意向の通り、無事に発行することができました。

8月初旬に打ち合わせを行った際には、お元気で、いつもと変わらない御様子でしたので、月末の編集部会直前に訃報を知り、関係者一同、大変驚きました。先生の温かな笑顔にお目にかかることができないうと思つと、残念でなりません。先生の長年の校友会および会報への貢献に感謝しつつ、これを引き継いでいく思いを新たにす次第です。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 表紙解説

勝又 英明 (S55建築)

今回の表紙は東京都市大学3キャンパスの窓シリーズ3回目、等々力キャンパスの窓です。同窓会誌ですから「同窓」ということに引っ掛けて、等々力キャンパスの窓をセレクトしました。

左上：総合研究所北面にある横連窓と前面ガラス張りの階段室です。ちょっとモダンなデザインです。総合研究所の建物は東横短大時代には文科第1校舎、文科第2校舎と呼ばれて今回の写真は文科第2校舎でした。

右上：2号館を南側から見たものです。東横短大時代には家政科第2校舎と呼ばれていました。現在は都市生活学部と人間科学部の校舎で、耐震補強がされています。2号館南側は緑豊かな休憩スポットとなっています。

右下：3号館の図書館の吹抜のあるラウンジの窓です。柔らかな落ち着いた空間です。

左下：2号館学生ホールを北側から見たものです。噴水があることやアーチ状の楯がちょっとおしゃれな雰囲気です。

番外で、下の写真は1号館の屋上から3号館（左側）と東京都市大学等々力中学校・高等学校を撮影したものです。



vol.06

## 編集後記

藤井 研一

「都市」も発行を重ねること6号となりました。

今年度、会報誌編集部会では、創刊号以来の経験を踏まえて、故今井部会長のご提案により、従前の誌面制作と印刷を同一の会社に発注する方式から、誌面制作と印刷を別々の会社に発注する方式を採用しました。その結果は、ご覧の通りですが、如何でしょうか。

編集部内では、内容がややマンネリ化してきているとの意見もあり、議論を重ねる中で、新たな取り組みを行いました。その主なものは次の通りです。

一つめは、「卒業生インタビュー」です。編集部会の中で、社会から注目されるような活躍をされている卒業生をお二人、東急電鉄の西澤氏、新潟調理師専門学校校の吉田育子氏を選びました。

二つめは、トピックスの充実で、大島章宏氏の「旭日大綬章」受章記念講演会・祝賀会、「日本遺産・大谷石文化」を探るバスツアー、吉田勝前会長の川崎支部での講演会を取り上げることができました。

三つめは、地方支部だよりの絞り込みです。地方における校友会活動が盛んになり、現在、地方支部は44を数えるまでになりました。これにより、従前のようにすべての地方支部を誌面で取り上げるのではなく、新規に立ち上げられた支部、重要なイベントのあった支部を取り上げるようにしました。そして、誌面に掲載できなかった地方支部についてはWeb上で紹介させていただくこととしました。

四つめは、従来、校友会とは深い関係がありながら、詳しい紹介記事を載せたことがなかった団体を「他団体紹介」として取り上げました。すなわち、校友会館自由が丘クラブの利用案内、柏三水会および柏門技術士会の新会長からの紹介記事を掲載しました。

このような内容を編集途中で織り込むことは、誌面制作と印刷を別会社にしたことにより可能となりました。

以上のように、今回、校友会活動の活発化に対応して会報誌の誌面構成も工夫が必要な状況となっていると感じました。

最後になりましたが、執筆していただきました皆様、編集にご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

## 会報編集部会

部会長：藤井 研一 (S57建築)

編集長：藤井 研一 (S57建築)

委員：植村 俊子 (S52家政)

委員：加藤 祐子 (S53国文)

委員：勝又 英明 (S55建築)

委員：衣斐喜美子 (S55家政)

2019年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.06

発行人 原口 兼正

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区 玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

## CONTENTS

2019 March Toshi vol.06

- 1-2 巻頭言
  - 1 東京都市大学 校友会 会長 原口 兼正
  - 2 東京都市大学 学長 三木 千壽
- 3-4 活躍する卒業生
- 5-7 トピックス
  - 5 大島章宏氏「旭日大綬章」受章記念講演会・祝賀会
  - 6 「日本遺産・大谷石文化」を探るバスツアー
  - 7 川崎支部主催 第二回講演会
- 8-12 地方支部だより
- 13 職場支部だより
- 14 他団体紹介
- 15-24 学科・学科同窓会だより
  - 17 維持会費について
  - 25 キャリア支援センター
  - 26 校友会からのご願いならびにご報告
  - 27 平成30年度定期総会
  - 29 海外支部立ち上げの為のご願い
  - 追悼 今井章久前会報編集部会部会長
- 30 表紙解説・編集後記

